



2023年度

明治大学 ボランティアセンター活動報告書

Meiji University Volunteer Center



2023年度ボランティアセンター活動報告書発刊にあたって

西山 春文 ボランティアセンター長
(学務担当副学長・学生部長・商学部教授)

新型コロナウイルス感染症による影響を受け始めて4年目。社会も大学も種々の感染症と共存しながらも、ほぼ以前の活動を取り戻しています。

2023年度は授業も課外活動も本来の学年暦に従って行われ、キャンパス内外ともに活気が戻ってきました。ここまで粘り強くボランティア活動をサポートして下さってきた教職員ならびに学生、関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

今年度も、本学学生・教職員としての活動、社会の一員としての活動、そして人と人を結びつける活動という三本柱を中心に、各キャンパスの特性を生かした、多様な視点に基づく有意義な活動を展開して参りました。

駿河台ボランティアセンターでは、災害・防災をテーマとした講座の開催に加え、千代田区主催の「合同パトロール」への学生ボランティアの参加、学生団体「Tree」の学生によるオンラインイベント「ボランティア×就活～就活体験談」の実施、更には学生持ち込みの対面イベント企画となる「車いすトークライブ」の実施等、新たな取り組みもありました。

和泉ボランティアセンターでは、高齢者との交流、障害者施設や小学校のイベントなど、ボランティア未経験の学生が活動を始めるきっかけとなる企画や、ボランティアについての学びの機会も設けました。また、サークルや学生が相談に来室する機会も増え、そういった学生同士が繋がりを持てるオープンな場になるよう働きかけたことにより、一層活動が活発になりました。

生田ボランティアセンターでは、こども実験教室、中学校環境教室、小学校プログラミング教室など、地域の教育機関と連携した、こどもと共に学生も学んでいく貢献活動が充実していました。また、学生が自らの体験を他学生に伝えるトークイベントや学生同士の交流を広げる対話のイベントも積極的に行いました。

中野ボランティアセンターでは、語学教室・対話カフェ・清掃活動などを開催しました。ボランティアに継続して参加してくれる学生も増え、学生同士の交流がより深まっていることを嬉しく感じます。

このように2023年度は本来の活動を取り戻すと同時に、学生同士あるいは学生が社会とのつながりを拡大するための活動が充実していました。これはコロナ禍により失われていた社会への共同参画という点で本来のボランティア活動の理念に沿ったものですので、おそらく今後の活動へとつながっていくはずです。

今後とも本学ボランティアセンターの活動に一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

ボランティアセンターの理念・目的

学生生活支援の理念は、高い社会性・共同参画意識を有する、自立した社会人としての基礎力を有する人材を育成するために、正課外教育の観点から、課外活動を含めて充実したキャンパスライフを学生が送れるように、学生生活全般の充実とそのためのキャンパス環境の整備を図ることにある。この理念の下で、明治大学ボランティアセンターは、正課外教育の観点から、学生に対するボランティア活動の支援を全学的に推進することにより、学生の社会性及び自主性を涵養し、もって社会に有用な人材を育成することを目的としている。

2023年度ボランティアセンター運営委員会名簿

| | | | |
|-------------------|--------|---------------------|--------|
| センター長 | | | |
| 商学部 専任教授 | 西山 春文 | | |
| 副センター長 | | | |
| 駿河台担当 商学部 専任教授 | 小林 尚朗 | | |
| 和泉担当 政治経済学部 専任教授 | 後藤 光将 | | |
| 生田担当 農学部 専任准教授 | 岡 通太郎 | | |
| 中野担当 総合数理学部 専任准教授 | 渡邊 恵太 | | |
| 運営委員 | | | |
| 法学部 専任教授 | 有賀 恵美子 | 情報コミュニケーション学部 専任准教授 | 清水 晶紀 |
| 商学部 専任准教授 | 水谷 尚子 | 国際日本学部 専任講師 | 小野 雅琴 |
| 政治経済学部 専任教授 | 水戸部 由枝 | 学生支援部長 | 小野寺 幸子 |
| 文学部 専任講師 | 新城 真里奈 | 学生支援事務長 | 須藤 弘樹 |
| 理工学部 専任准教授 | 川崎 章司 | 和泉学生支援事務長 | 東盛 達也 |
| 理工学部 専任准教授 | 本多 貴之 | 生田学生支援事務長 | 幕内 達二 |
| 農学部 専任准教授 | 河野 菜摘子 | 中野教育研究支援事務長 | 藤嶋 利生 |
| 経営学部 専任准教授 | 宮田 憲一 | オブザーバー 政治経済学部 専任教授 | 木寺 元 |

駿河台キャンパスボランティア活動支援分科会

| | |
|---------------|--------|
| 座長（副センター長） | |
| 商学部 専任教授 | 小林 尚朗 |
| 分科会委員 | |
| 法学部 専任教授 | 有賀 恵美子 |
| 政治経済学部 専任教授 | 水戸部 由枝 |
| 文学部 専任講師 | 新城 真里奈 |
| 経営学部 専任准教授 | 宮田 憲一 |
| 事務局 | |
| 学生支援事務長 | 須藤 弘樹 |
| 学生支援事務室 | 秋山 智美 |
| 駿河台ボランティアセンター | 河野 理紗 |

和泉キャンパスボランティア活動支援分科会

| | |
|---------------------|--------|
| 座長（副センター長） | |
| 政治経済学部 専任教授 | 後藤 光将 |
| 分科会委員 | |
| 商学部 専任准教授 | 水谷 尚子 |
| 情報コミュニケーション学部 専任准教授 | 清水 晶紀 |
| 和泉キャンパス課長 | 庄井 正志 |
| 事務局 | |
| 和泉学生支援事務長 | 東盛 達也 |
| 和泉学生支援事務室 | 渡辺 正人 |
| 和泉ボランティアセンター | 小林 和子 |
| 和泉ボランティアセンター | 高橋 真由美 |

生田キャンパスボランティア活動支援分科会

| | |
|--------------|--------|
| 座長（副センター長） | |
| 農学部 専任准教授 | 岡 通太郎 |
| 分科会委員 | |
| 理工学部 専任准教授 | 川崎 章司 |
| 理工学部 専任准教授 | 本多 貴之 |
| 農学部 専任准教授 | 河野 菜摘子 |
| 生田キャンパス課 | 鈴木 幸司 |
| 事務局 | |
| 生田学生支援事務長 | 幕内 達二 |
| 生田学生支援事務室 | 大須賀 克之 |
| 生田ボランティアセンター | 加藤 岳志 |
| 生田ボランティアセンター | 小林 優美子 |

中野キャンパスボランティア活動支援分科会

| | |
|--------------|-------|
| 座長（副センター長） | |
| 総合数理学部 専任准教授 | 渡邊 恵太 |
| 分科会委員 | |
| 国際日本学部 専任講師 | 小野 雅琴 |
| 事務局 | |
| 中野教育研究支援事務長 | 藤嶋 利生 |
| 中野教育研究支援事務室 | 首藤 雅一 |
| 中野教育研究支援事務室 | 河野 大輔 |
| 中野教育研究支援事務室 | 三澤 祐子 |

目次

| | |
|-------------------------------|----------|
| ●活動報告書発刊にあたって（ボランティアセンター長挨拶） | ・・・1 |
| ●2023年度 ボランティアセンター運営委員会・分科会名簿 | ・・・2 |
| ●目次 | ・・・3 |
| ●年間活動 | ・・・4-5 |
| ●活動報告 | |
| 1 副センター長より | ・・・6-7 |
| 2 センターが主催・コーディネートする活動 | ・・・8-56 |
| 3 学生の自主的な活動の支援 | ・・・57-79 |
| ●資料 | |
| ボランティアセンター来室者数・活動者数 | ・・・80 |

※表記について

明治大学では、「障害」の文字表記を「障がい」として統一しています。ただし、固有名称および感想においては、この限りではありません。

2023年度 明治大学ボランティアセンター年間活動

| | 駿河台ボランティアセンター | 和泉ボランティアセンター |
|----------|---|---|
| 4月 | <ul style="list-style-type: none"> 春の出張開室 P11 | <ul style="list-style-type: none"> 明大生ボランティア丸ごと紹介タイム P14 昼休みボラセンで新歓！ P14 |
| 5月 | <ul style="list-style-type: none"> 神田祭（学生団体 Tree） P72 神田すずらん祭り（Tree） P73 善福寺公園一斉清掃（Tree） P62 | <ul style="list-style-type: none"> ごみ拾い活動（5月、6月、11月） P52 |
| 6月 | <ul style="list-style-type: none"> 災害救援ボランティア講座 P8 「夏の体験ボランティア」説明会 P12 千代田区合同パトロール（春・秋） P55 千代田区一斉清掃（Tree） P64 | <ul style="list-style-type: none"> 杉並区高齢者との「Ocha-kai」（6月、12月、3月） P33 せたがや学生ボランティアネットワーク会議（6月～3月） P16 全商品リサイクル活動（サークル MIFO） P58 TABLE FOR TWO（サークルぱれっと）（6月、12月） P60 Meal for Refugees（サークル MIFO）（6月、12月） P59 「夏の体験ボランティア」説明会 P12 |
| 7月 | <ul style="list-style-type: none"> 防災ワークショップ P9 大学・行政・社協・NPO等4者連携による防災・災害ボランティア育成フォーラム P10 華を楽しむ会（Tree） P74 北神町子ども夏まつり（Tree） P75 就活体験談 P13 スポ GOMI イベント P64 2023 BLUE SANTA ALL JAPAN at 葛西臨海公園 P68 ボランティア活動支援分科会 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 P41 竹とんぼ教室 |
| 8月 | <ul style="list-style-type: none"> 授業テラス託児ボランティア P62 ビーチクリーン活動（Tree） P69 | |
| 9月 | | |
| 10月 | <ul style="list-style-type: none"> MIW祭り（Tree） P63 ふれあい福祉まつり（Tree） P75 明大祭（Tree） ホームカミングデーへの協力（Tree） P43 キッズハロウィンフェスティバル（Tree） P76 神保町ブックフェスティバル（Tree） P76 | <ul style="list-style-type: none"> まつばらデイキャンプ P42 秋のお楽しみ会 P35 障がい者・高齢者体験 P36 |
| 11月 | <ul style="list-style-type: none"> 災害救援ボランティア講座 P8 総務課主催 総合防災訓練内 備蓄品配布訓練 P11 千代田区合同パトロール（春・秋） P55 華を楽しむ会（Tree） P74 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティアサークル幹部会（11月、12月） P15 |
| 12月 | <ul style="list-style-type: none"> 善福寺公園一斉清掃（Tree） P62 車いすトークライブ「〇〇な人。」 P40 就活体験談 P13 Tree 総会 | <ul style="list-style-type: none"> 先輩に何でも聞いてみよう！ P15 クリスマス音楽会 P37 せたがや学生ボランティアフォーラム P16 全商品リサイクル活動（サークル MIFO） P58 |
| 1月 | | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 |
| 2月 | | |
| 3月 | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 | <ul style="list-style-type: none"> パトラン明治大学支部キックオフセレモニー P32 ボランティア学生会議 P17 すぎなみプラス参加者交流会 P18 |
| 通年 | <ul style="list-style-type: none"> エコキャップ回収（Tree） P65 エコキャップ業者引き渡し P66 | <ul style="list-style-type: none"> 公式 SNS で情報発信 P19 明大前駅周辺清掃活動（サークルぱれっと） P67 エコキャップ回収（サークルぱれっと） P66 |
| 4キャンパス合同 | <ul style="list-style-type: none"> 3大学連携オンライン講座（9月） P56 | |

| 生田ボランティアセンター | | 中野ボランティアセンター | | |
|---|--|---|--|--------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ボランティア相談会 P23 昼やすみ学生トーク！ P21 ランチ会（4月～12月） P22 | | 対話カフェ ハナハナ（4月～7月） P24 | | 4月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 江の島新歓清掃（LINKs） P69 ボランティア活動支援分科会 | | <ul style="list-style-type: none"> 清掃活動（4月～7月） P53 韓国語教室（5月～7月） P27 中国語教室（5月～7月） P30 献血活動 P61 | | 5月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 科学博士になろう① P44 昼やすみ学生トーク！ P21 ボランティア相談会 P23 ボランティア活動支援分科会 | | <ul style="list-style-type: none"> 全商品リサイクル活動（6月） P57 | | 6月 |
| | | | | 7月 |
| <ul style="list-style-type: none"> かわさきサイエンスチャレンジ（6月～8月） P46 | | | | 8月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 小学校でのプログラミング授業のサポート（8月～11月） P50 | | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 | | 9月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 科学博士になろう②実験テーマ創り（10月～12月） P45 | | <ul style="list-style-type: none"> 清掃活動（9月～12月） P53 対話カフェ ハナハナ（11月～12月） P24 | | 10月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 液体窒素実験 P48 エネルギー環境ワークショップへの出展（LINKs） P70 | | <ul style="list-style-type: none"> 韓国語教室（10月～12月） P27 中国語教室（10月～12月） P30 献血活動 P61 | | 11月 |
| | | | | 12月 |
| <ul style="list-style-type: none"> ボランティア相談会（1月～3月） P23 試験勉強会 P19 ボランティア活動支援分科会 | | | | 1月 |
| | | <ul style="list-style-type: none"> ボランティア活動支援分科会 | | 2月 |
| <ul style="list-style-type: none"> つながるマルシェ（LINKs） P71 | | <ul style="list-style-type: none"> ブラインド卓球大会運営ボランティア P38 | | 3月 |
| <ul style="list-style-type: none"> 公式 SNS で発信 P20 | | | | 通年 |
| <ul style="list-style-type: none"> ボランティアセンター運営委員会（年2回） オンライン団体登録（通年） 災害復興ボランティア活動に対する助成金（通年） | | | | 4キャンパス 合同 |

副センター長より

学生の意識や行動を後押しする役割を

小林 尚朗 ボランティア副センター長
(駿河台担当、商学部 専任教授)

2023年度の駿河台ボランティアセンターは、ラウンジパープルにおける春の出張開室に始まり、春と秋の災害救援ボランティア講座と千代田区合同パトロール、そして防災ワークショップや車いすトークライブの開催など、多様な活動に取り組むことができました。また、学生ボランティア団体 Tree のメンバーたちも、エコキャップ活動、各地での清掃活動、華を楽しむ会（猿楽町内の花壇の整備と花植え）などの主要な活動のほか、コロナ禍の制限がなくなったこともあり、神田明神祭り、MIW（千代田区男女共同参画センター）祭り、そして大学のホームカミングデー等々、数多くのイベントにも参加することができた実りある一年でした。

2024年は年明け早々に能登半島地震が発生し、ボランティアのあり方について議論が巻き起こりました。政府や被災地の首長が交通渋滞などへの懸念からボランティアを控えてもらいたいと発信したことで、ボランティアの「自粛」が求められ、一部でボランティアに対する批判も見られました。他方で、ICTの発達によって多種多様な情報を入手できる現代社会では、一刻を争う場面で自主的なボランティアの行動が大きな成果につながることも期待できます。「自粛」が「萎縮」につながることは、避けなければなりません。

今後も学生の社会参加や社会貢献活動を支援するため、ボランティアセンターとしてさまざまな情報や機会を提供し、学生の意識や行動力が育まれることを期待しています。

ボランティアで充実した大学生活を

後藤 光将 ボランティア副センター長
(和泉担当、政治経済学部 専任教授)

社会では、人的資源が不足していたり、充実が求められたりする分野があります。特に、教育分野、福祉分野では日常的に不足している場合が多いです。また、地震、豪雨、豪雪などの影響による突発的な災害時にも、その復興に向けて多大な人的資源が必要になります。そこで重要な役割を担うのが「ボランティア」です。特に、大学生の若い力と叡知は貴重な資源です。大学生のボランティア活動が、社会から要求されているのは当然といえます。ボランティアとは自発的な意志に基づいた社会貢献ですが、ボランティアに従事する大学生自身にも得られるものは多いです。サポートしている人たちとのつながりを感じたり、普段の大学生活にはない新たな出会いがあったり、新たな知識やスキルを獲得する機会となります。

しかしながら、いざ「ボランティアをやりたい」と思っても、何に手を付けたらいいのかわからない学生も多いでしょう。そこで役立つのが本学のボランティアセンター（VC）です。VCのスタッフは、学生の潜在的な関心を引き出し、適した活動につなげるため、寄り添い一緒に考えてくれます。また、学生ボランティアは自身の自己実現への欲求や社会参加意欲の充足に資するだけでなく、その活動の広がりにより、交流する地域社会づくりが進むなど、大学の地域連携としての意義もあります。VCの充実した体制構築は、明治大学としても必要不可欠な要素です。今後、全キャンパスのVCの支援体制が強化されることを願っています。

ボランティア活動を通じた成長

岡 通太郎 ボランティア副センター長
(生田担当、農学部 専任准教授)

困っている人を助けたい、子供たちを喜ばせたい、自然環境を守りたい、こうした感情はすばらしいし、ボランティア活動を行っている人たちの多くはこれらの動機を実現させることで楽しんでいる。一方で、ボランティア活動に参加しない人たちのなかには、そうした活動はよっぽど心のきれいな、あるいはお金や時間に余裕のある人がやるものだと考え、ボランティア活動への敷居の高さ（ある意味偽善者っぽさ）を感じている人も多いかもしれない。大学がボランティア活動をサポートしていくためには、こうした後者のような学生にも活動を促すような雰囲気作りが大切だと感じる。例えばボランティア活動は、他者ために労力を使うことができる限られた人だけが行うものではなく、自分の成長や利益という極めて自然な動機で行えるものであることを紹介する。これは就職活動という動機（職業選択の材料としたり、面接試験のネタにしたり）や課外活動をエンジョイするという動機（大学に蓄積されたノウハウを利用してコスパ良く楽しむ）、さらには対人関係の悩みを解決したいという動機（自分の居場所づくりやアイデンティティ、社会貢献を通じた自己実現）に働きかけることも有効となるかもしれない。他人の利益は実は自分の利益になってるかも。むしろ自分の利益は他人の利益を通じて得られるのかも。就職活動を「効率的に」行うことに忙しいこれからの大学生には、キャリアセンターや学生相談室、あるいは一般教員などと連携しながらボランティア活動の「おいしさ」を伝えていくことが必要になってくるのかもしれない。

100年に1度の中野駅周辺の再開発とともに

渡邊 恵太 ボランティア副センター長
(中野担当、総合数理学部 専任准教授)

「国際化」「先端研究」「社会連携」をコンセプトとする中野キャンパス（国際日本学部、総合数理学部）は、キリングroup本社をはじめとする大手企業や中野区の行政機関、そして帝京平成大学と早稲田大学などの教育機関があり、国際色豊かなだけでなく、隣接する四季の森公園の一部と言えるほど地域と一体化した場所です。住民や企業組織人ら様々な人々が集い、交流する土地柄があります。隣接の公園、中野キャンパス開設から始まった中野駅周辺の再開発は100年に1度と言われる規模です。2024年には、中野のランドマークである中野サンプラザ解体がはじまり、さらに大学目の前の団町エリアも大きな商業施設とマンションの開発が進んでいます。区役所も新庁舎も四季の森公園に隣接し建設が進んでおり、より国際性や、先端性、社会連携が期待されるようなエリアとなろうとしています。

中野キャンパスでは、新型コロナウイルス感染症の蔓延以前、キャンパスの1階エントランスや学生食堂は、地域住民にも親しまれて参りました。そうした地域性や土地柄を活用し、防災ワークショップなどの取り組みや、学部の特性を活かして実施している中国語、韓国語の語学教室（講師は学生ボランティア）は好評を得ています。対面での活動が再開し地域と連携した取り組みなど、創意工夫により新展開を迎えています。

中野ボランティアセンターの活動は、日本社会において現在まさに求められているものと言えます。

今後とも、一層活動の拡充を図り、学生の成長に寄与するとともに社会からの要請に応じていく所存です。

センターが主催・コーディネートする活動

防災・復興

災害救援ボランティア講座 **駿河台**

千代田区大規模災害時における協力体制に関する基本協定に基づき、2005年度から実施している千代田区助成事業です。千代田区と大学の災害時の協力体制を確実なものとしていくための学生ボランティアの養成を目的として実施しています。全3日間のカリキュラム修了者には、「セーフティリーダー認定証」および「上級救命技能認定証」が交付されます。

日時 ▶ 春学期 2023年5月27日(土)・6月3日(土)・10日(土) 9:00~17:00
秋学期 2023年11月4日(土)・11日(土)・18日(土) 9:00~17:00

場所 ▶ 駿河台キャンパスリバティタワー内教室及びスポーツルーム、本所防災館

内容 ▶ 消防実務・ボランティア有識者による講義・演習、本所防災館での災害模擬体験、上級救命技能講習などの実技を3日間通して学ぶ。

協力 ▶ 災害救援ボランティア推進委員会

後援 ▶ 総務省消防庁、NHK

受講者数 ▶ 春学期 30名 秋学期 18名

累計受講者数 ▶ 887名 (2005~2023年度)



▲ 救命講習の様子



▲ グループワークの様子



▲ 防災館での様子



▲ 講義の様子



▲ 地震体験の様子

防災ワークショップ 駿河台

2014年度から駿河台キャンパスで実施している企画で、学生や教職員の防災意識を高めることを目的に年1～2回開催しています。今年度は前年度に引き続き、オンラインで開催しました。

3大学連携協定を結んでいる関西大学の学生、教職員にも参加していただき様々な視点で防災について考えました。

日時 2023年7月11日(火) 17:10～18:50
※後日アーカイブ配信 2023年8月8日(火)～8月31日(木)

方法 Zoom

目的

- ・学生、教職員に対する防災意識の向上
- ・災害時の学生ボランティア養成のためのきっかけづくり

内容 講義 『いざ！という時のための「地震防災ワークショップ」』

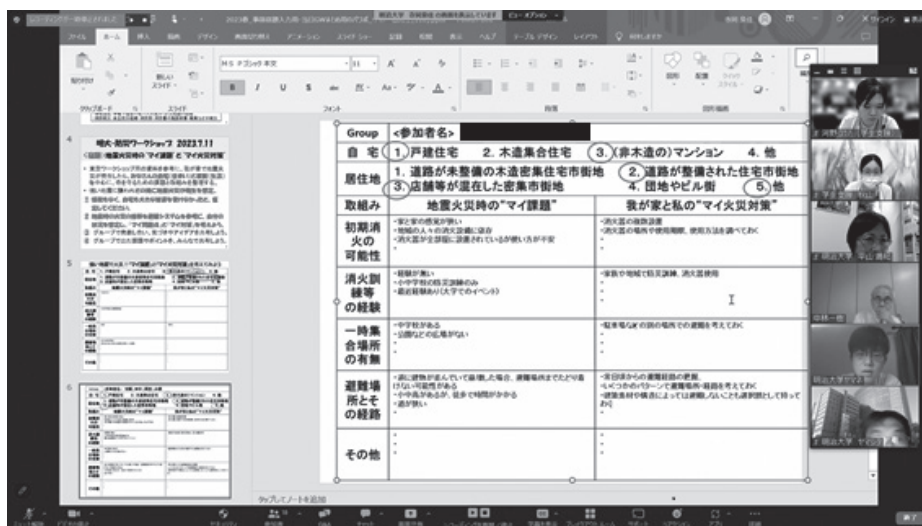
参加 明大生17名、明大教職員1名、他大生2名、他大職員2名
後日アーカイブ配信申込者40名

講師 中林 一樹 氏 (明治大学 元特任教授、明治大学 復興・危機管理研究所 客員研究員、東京都立大学 名誉教授)

参加学生の声



- ・昨年度に引き続き、2回目の参加になりました。このような機会がないとなかなか防災について考えないので、参加してよかったと思いました。夏休みにゼミで東日本大震災の被災地であった大船渡に伺います。それに向けての意識も今回のワークで高めることができました。ありがとうございました。
- ・本日は貴重なお話をありがとうございました。いざとなったときの、抜け穴が多く分かりました。自分だけでなく、他人も助けられるような行動を適切にとれるように対策していきたいです。



▲ 防災ワークショップの様子

大学・行政・社協・NPO 等 4 者連携による 防災・災害ボランティア育成フォーラム ～20年の取り組みを振り返り、次の20年を考える～

駿河台

千代田区内大学で学生・教職員を対象とした「災害救援ボランティア講座」が初めて開催されてから、今年で20周年を迎え、記念フォーラムが開催されました。明治大学からは、公認ボランティアサークル『しんちーむ』の学生2名が登壇し発表しました。参加者と共に大学・行政・社協・NPO等の4者連携の取り組み、そして学生による活動などを通して20年の歩みを振り返り、次の20年に向けた新たなステップを考えました。

日時 2023年7月8日(土)

場所 専修大学神田キャンパス内教室

内容 第1部
基調講演・フォーラム
14:00～17:00
(講師) 東京大学大学院工学系研究科
教授 廣井 悠 氏
区内大学と学生による成果・活動報告

第2部
ワークショップ / 意見交換
17:30～19:00

参加 2名

主催 災害救援ボランティア推進委員会

しんちーむの学生による発表の様子 ▼



発表学生の感想



法学部3年 小倉 光弘
発表では、私たちしんちーむの活動やボランティアに対する想いを述べさせていただきました。具体的には、被災地に対する「地域振興」地元の子どもたちへの「教育」をテーマに、しんちーむの歴史を振り返りました。そして、東日本大震災から年月の経った今、被災者たちは何を求めているのか、私たちは何ができるのかを改めて問いかけました。

また、今回のフォーラムは他大学からの発表もあったことから、防災・災害に関して様々な活動や取り組みを伺うことができました。私たちとは異なる視点から、ボランティアに対するアプローチを学ぶことができ、大変貴重な経験となりました。

災害の復興を目的に創設された私たちしんちーむですが、現在は地域振興を目指し活動を続けています。東日本大震災から12年もの歳月が経ち、被災地への携わり方も変化してきています。しかし、被災した方々の心の復興はまだ終わっていません。このフォーラムを通じ、一人でも多くの方が防災・災害に対して考えるきっかけとなれば幸いです。

政治経済学部4年 中村 祐斗

東日本大震災から10年以上が経過してその影響は風化しつつあるが、未だに残された課題も多く存在している。そのため、過去だけでなく未来にも目を向けて、我々が今後自然災害とどう向き合っていくべきなのか改めて考える必要性を実感した。

大学としても他の組織と連携を図りながら様々な取り組みを行っており、学生が積極的にその機会をうまく活用することで災害に対する意識が高まると期待できる。

また、他大学のサークルや学生団体の活動報告を聞き、我々も参考にしたいと感じるものが多かっただけでなく、ボランティアサークルとしての活動の広さを再認識した。

備蓄品運搬・配布訓練 駿河台

明治大学総務課主催による駿河台キャンパス総合防災訓練が行われ、学生が備蓄品運搬・配布訓練に協力しました。当日は段ボールを開け、備蓄品（クラッカー、アルファ化米、2L ミネラルウォーター）をテーブルに並べ、空の段ボールを崩す作業に取り組みました。

日時 2023年11月27日(月) 12:20~13:30

場所 リバティタワー 1階紫紺ホール

内容 訓練内容及びスケジュール
 12:20 集合、ビブス・ヘルメット着用、業務説明
 12:25 配置
 12:30 2限終了、配付開始
 13:30 3限開始、訓練終了、解散。

参加 学生4名、職員2名

目的 今後発生が予想される災害に備え、防火・防災に対する意識及び技術の向上を図る

センターの役割 連絡・調整、ボランティア募集案内、当日受付・説明



▲総合防災訓練の様子

情報提供・交流

駿河台ボランティアセンター 春の出張開室 駿河台

新年度を迎え、何か新しいことに挑戦してみたい！ボランティアに興味はあるけれど、何から始めたらいいのかわからない、就活に向けてアピールポイントが欲しい等、ボランティアに関する相談ごとに対応するため、オープンスペースのラウンジパープルにて春の出張開室を行いました。

当日は駿河台ボランティアセンター直属の学生団体「Tree」の学生にも参加してもらい、学生同士でボランティアの体験を語り合うきっかけ作りができました。

日時 2023年4月25日(火)、26日(水)、27日(木) 12:30~13:30

場所 リバティタワー 2階ラウンジパープル内

内容 ボランティア相談、ボランティアチラシの掲示、センター紹介パワーポイントの掲示

参加 3日間累計16名（内 Tree 部員11名）

目的 学生へのボランティアセンターの周知、新年度のボランティア情報の広報、「自分でボランティアを作りたい」「こんな活動をしたい」というニーズにも対応していることを周知し、学生の思いを汲み取るきっかけにする



▲ラウンジパープル内の掲示の様子

「夏の体験ボランティア」説明会 駿河台

長期休暇を利用してボランティアをしたいけれど、何から始めればいいのか分からないという学生に向けて、夏のボランティア説明会を開催しました。

講師として、東京ボランティア・市民活動センターの方をお招きし、ボランティアの由来から、参加方法・保険加入・注意点等について幅広くお話をいただき、ボランティアについて知り、活動を始めるきっかけ作りにつなげていきました。事前予約不要で開催しました。

| | |
|----|---|
| 日時 | 2023年6月28日(水) 12:40~13:20 |
| 場所 | リバティタワー内教室 |
| 内容 | 大学近隣を問わず、都内や近県での活動の探し方や、ボランティア保険についての説明 |
| 参加 | 29名 |
| 協力 | 東京ボランティア・市民活動センター |



▲説明会の様子

参加学生の感想



- これまでもボランティアをしたことがありますが、保険や(熱中症などの)活動の注意点など基本的なことをしっかり確認できたのは初めてだったのでよかったなと思います。
オンラインのボランティアがあることは知らなかったので驚きました!!紹介の写真も楽しそうな雰囲気だったので魅力的でした。
- ボランティアに参加するにあたっての心構え・注意点等を教えていただき、ボランティア参加の心の障壁がなくなりました。

「夏の体験ボランティア」説明会 和泉

夏休みに何か始めたい学生を対象に、東京ボランティア・市民活動センターの講師をお迎えし、ボランティア活動始めるヒントを見つけてもらう説明会を開催しました。

「ボランティアを始めてみたい」「どんなボランティアがあるのだろう」そんな思いを抱く学生が多く集まり、熱心に耳を傾けていました。終了後にボランティアセンターへ相談に訪れた学生もいて、関心の高さを感じ取れた講座になりました。

| | |
|----|---------------------------|
| 日時 | 2023年6月30日(水) 12:40~13:20 |
| 場所 | 和泉キャンパス内教室 |
| 参加 | 51名 |
| 協力 | 東京ボランティア・市民活動センター |

今年の夏は
ボランティア!

「夏の体験ボランティア」
説明会開催のお知らせ!

東京近郊の様々なボランティア活動情報に精通した、東京ボランティア・市民活動センターの方を講師としてお迎えして、「夏の体験ボランティア」説明会を開催します!

「ボランティアをやりたいけれどどういった活動があるの? どうやって探すの?」
「自分に合っているものは何?」などヒントを見つけてもらえるかも!

開催場所は 駿河台キャンパスと和泉キャンパスです。夏休みにボランティア活動を
検討されている方、ぜひご参加ください!

★駿河台キャンパス開催日: 6月28日(水)
 場所: リバティタワー1114教室
 時間: お昼休み(12:40~13:20)

★和泉キャンパス開催日: 6月30日(金)
 場所: 和泉ラーニングスクエア LS201教室
 時間: お昼休み(12:40~13:20)

主催: 駿河台ボランティアセンター 03-3290-4221 e-mail: mvouzu@mv.ac.jp
 和泉ボランティアセンター 03-6300-1470 e-mail: mvozumi@mv.ac.jp
 協力: 東京ボランティア・市民活動センター

▲募集ポスター



▲説明会の様子

ボランティア×就活 就活体験談 駿河台

ボランティア活動を通して得た経験を、就職活動でどのように生かしたかを「Tree」の学生に話してもらい、就活イベント企画を開催しました。当日は4年生のメンバー2名が登壇し、講演当日から後日アーカイブ配信に至るまで、多くの学生の参加がありました。

日時

春学期 2023年7月5日(水)・7月6日(木)

※後日アーカイブ配信 2023年8月8日(火)～8月31日(木)

秋学期 2023年12月12日(火)

※後日アーカイブ配信 2023年12月25日(月)～2024年2月29日(木)

方法

Zoom

内容

ボランティアサークル活動等、大学生活で得た経験をどのように、就職活動に生かしたかの体験談を話す。

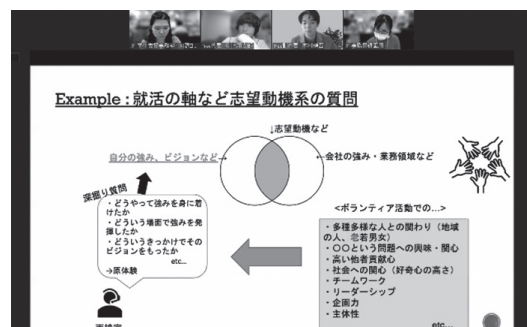
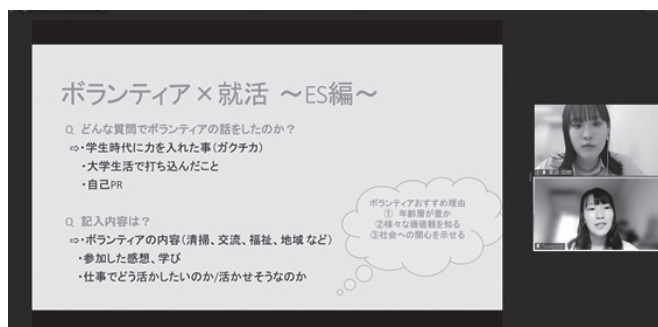
参加

| 開催時期 | 当日参加 | 後日アーカイブ配信申込者 |
|------|---------------|--------------|
| 春学期 | 5日 17名 登壇学生2名 | 91名 |
| | 6日 12名 登壇学生2名 | |
| 秋学期 | 19名 登壇学生2名 | 73名 |

参加学生の声



- ・体験談を踏まえて、ボランティア活動を上手に掘り下げて言語化することの大切さを学びました。
- ・就活の面接で話すエピソードとして、ボランティア活動をどのように活用すれば良いのか、就活生の視点で説明していただき、とても分かりやすかったから。
- ・また、課題→解決策→実践→困難→乗り越え方→何を得たかというエピソードの構成の仕方が、とても参考になったから。
- ・ボランティアの経験を就活などでどのようにいかしているかを知ることができたから。
- ・体験談を踏まえて、ボランティア活動を上手に掘り下げて言語化することの大切さを学びました。



▲イベントの様子

明大生ボランティア丸ごと紹介タイム **和泉**

4月には、新生活をきっかけに「ボランティアを始めてみたい」「どんなボランティアがあるのだろう」そんな思いを抱く学生がたくさんいます。そこで、ボランティアに興味のある新生を主な対象として、活動団体や形態を問わず、明大生の行っているボランティア活動や団体を一度に紹介する合同説明会を開催しました。昼休みの限られた時間ではあるものの、両日とも満員で立ち見になってしまう学生もいました。説明会后には、興味を持った団体に詳しく話を聞きに行き、連絡先を交換するなど、早速、新たな一歩を踏み出す姿も見られました。

今後も学生の活動につながる機会を積極的に作っていきたいと思います。



▲募集チラシ

日時 ①2023年4月20日(木) 昼休み

②2023年4月21日(金) 昼休み

場所 和泉キャンパス内教室

参加 ①80名(うち発表者12名)

②62名(うち発表者12名)



▲熱心に耳を傾ける学生達



▲登壇した学生達

昼休みボラセンで新歓! **和泉**

「明大生ボランティア丸ごと紹介タイム」を2日間開催しましたが、日程が合わず参加できなかった学生からの要望があり、後日「昼休みボラセンで新歓!」を開催しました。ボランティアサークルに興味がある学生が多く来室して、各サークル担当学生の説明に高い関心を示していました。また新生生には、いつでも気軽に来られるボランティアセンターを効果的に周知することができました。

日時 2023年4月24日(月)～4月28日(金) 昼休み

場所 和泉ボランティアセンター

参加 32名

先輩に何でも聞いてみよう！ 和泉

例年、春学期初頭に開催していた主に履修の相談などをする「先輩に何でも聞いてみよう！」を2023年度は形を変えて開催しました。就活を終えた4年生のボランティアサークル幹部から体験談を聞き、アドバイスをもらうなどして、今後のサークル活動の参考にしてもらおうと、対象は現ボランティアサークル幹部に絞って企画しました。

また、ボランティアセンターでもよく相談される「ボランティア活動×就活」を、学生の視点で体験談を話してもらうなど、参加者は大変有益な情報を得ることができたとのことでした。今後も学生同士の互助活動の手助けができる企画を考えていきます。

日時 2023年12月5日(火) 12:35~14:00

場所 和泉ボランティアセンター

参加 相談学生2名、学生アドバイザー1名

ボランティアサークル幹部会 和泉

2023年度のサークル幹部の代替わりが行なわれたタイミングでサークル同士の交流を深めることを目的として実施しました。サークル活動の活性化や、サークルを超えた活動につながることを期待し、定期的な会合を和泉ボランティアセンターでは支援していきます。

日時 ①2023年11月16日(木) 昼休み
②2023年12月20日(水) 昼休み

場所 和泉ボランティアセンター

内容

- 自己紹介
- ボランティアサークル合同で開催するイベント、ボランティアサークルの冊子作りなど合同作成のための話し合い
- 連絡先交換、名簿作り
- 新企画「学生会議」についての話し合いなど。

参加 ①13名（公認ボランティアサークルの新幹事長・支部長）、職員2名
②9名（公認ボランティアサークルの新幹事長・支部長）、職員2名



▲話し合いをする学生達

せたがや学生ボランティアネットワーク会議・ せたがや学生ボランティアフォーラム **和泉**

「せたがや学生ボランティアネットワーク会議」は世田谷区が大学との連携・協力によるまちづくりの推進を目的に、1年を通して開催されています。その取り組みとして大学生によるボランティア活動への区民の理解と関心を深めるために活動事例の発表、パネルディスカッションを行う「せたがや学生ボランティアフォーラム」があります。ともに本学の公認ボランティアサークルと団体が参加しました。

日時 ▶ セタがや学生ボランティアネットワーク会議
2023年6月～2024年3月
せたがや学生ボランティアフォーラム
2023年12月16日(土) 14:00～16:30

場所 ▶ 成城ホール

内容 ▶ 大学、区、区内のボランティア活動団体等との間で、ボランティア活動に関するネットワークを構築し、定期的な会議を通じて、地域や区におけるボランティア情報を提供し、大学生による地域活動を促進し、また、大学生が区・地域とつながり、活躍できる機会を増やし、新たなまちづくりを推進する活動です。2023年度の「せたがや学生ボランティアフォーラム」は3部構成で、活動報告、パネルディスカッション、地域の方との意見交換が行われました。

参加 ▶ 公認ボランティアサークル「ぱれっと」
公認ボランティアサークル「きずな international」
公認ボランティアサークル「心身障害者福祉会しいの実」
公認ボランティアサークル「のえる」



▲パネルディスカッションの様子

ボランティア学生会議 **和泉**

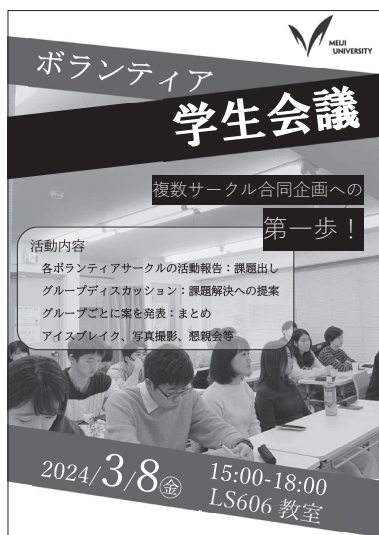
例年3月に開催しているボラFES（ボランティア学生交流会）の見直しを行いました。開催方法、時期などボランティアサークル幹部たちと協議したところ、サークル間の交流を図る前に、まずは幹部で、そもそも自分たちが抱えている問題点などについて話し合い、そこから企画を考えたいという声が出ました。和泉ボランティアセンターからも幹部同士の繋がりを深くすることを提案していた為、意見が一致し「明治大学ボランティア学生会議」の開催に至りました。

日時 2024年3月8日(金) 15:00~18:30

場所 和泉キャンパス内教室

内容 ①サークル紹介、自分たちの抱える問題、新たな企画などのプレゼンテーション
②グループワークで解決策や新たな展開を考え、発表

参加 学生29名、職員2名



▲ポスター



▲集合写真

すぎなみプラス参加者交流会 和泉

杉並区では、新たに地域での活動に参画する方を増やし、地域の活動を活発化することを目的として、杉並区独自の仕組みとして杉並区公民連携プラットフォームを運用しています。このプラットフォーム利用の利便性向上を図り、情報共有をスムーズに行うため、公民連携プラットフォームのWEBサイト「すぎなみプラス」を開設されました。和泉ボランティアセンターでは、この仕組みが学生と地域とをつなぐ新たなツールとなってくれることを期待し、登録しました。今回この取り組みに賛同し、登録した学生が交流会に参加しました。

日時 2023年3月16日(土) 14:00~16:00

場所 杉並区立産業商工会館

内容

- すぎなみプラス参加者によるPR (各10分程度)
- 当日参加者による交流タイム

参加 1名

主催 杉並区

参加学生の声



法学部4年 渡部 隆介

交流会では様々な団体や区民の方々から大変貴重な話を聞くことができました。また、私が発表を終わった後の全体の休憩中には、様々な方からお声がけいただきました。「災害ボランティアに興味ある?」、「学生さんにお手伝いしてほしい」など、たくさんの繋がりが生まれました。

私はボランティアをする上で大切にしていることがあり、それは相手と対等で同じ目線に立つということです。今回の交流会で区役所の方とお話した時に、その方も、私と同様に働く際にはそのことを大切にしていると伺いました。私も社会人になっても、ずっとその気持ちを大切にしていきたいと思っています。

公式SNSで情報発信 和泉

2023年度秋学期よりLINE公式アカウントを使ってボランティア情報を発信しています。また発信後の学生とのやり取りなどには、レスポンスの早いLINE公式アカウントのチャットを活用しています。

日時 2023年9月19日(火)～2024年3月31日(日)

- 内容**
- ①送信対象者：ボランティア相談に来室した学生のうち希望者、ボランティアサークルの幹部、Ocha-kaiメンバー
 - ②発信する情報：センター主催イベントの告知
登録団体のボランティア募集の中で募集期間の短いものなど。
 - ③情報発信後などの学生とのやり取りにLINEチャットを使用。

| アカウント名 | 2023和泉ボランティアセンター | 和泉ボランティアサークル | Ocha-kai |
|--------|------------------|--------------|----------|
| 登録数 | 36 | 47 | 24 |
| 発信数 | 16 | 30 | 17 |

効果 これまで学生にメールによる情報配信を行っていましたが、募集期間の短いボランティアの場合、配信メールを見ない学生が多く、締切が終わってから気づくことも多かったのですが、LINEでの情報配信を始めたところ反応が早かった為、ボランティア活動の締切に間に合ったケースがありました。学生の連絡ツールはメールからLINEに移行していることから、今後も続けてLINEで情報発信をしていく予定です。

試験勉強会 生田

1月に入って冬季休業が終わると、学生達は試験対策に追われる時期になります。生田キャンパスの学生にとっては、試験数が多く定期試験のウエイトが大きいため、2022年度と同様、出入り自由、会話自由、飲食自由の試験勉強ができる自習室として、生田ボランティアセンターを開放しました。

2022年度は15名の利用者がいました。2023年度はコロナが収束してきたのもあり、学生ラウンジや学生食堂等であつまって勉強したり、談笑している多くの学生の姿を目にしました。その影響もあってか、ボランティアセンターに来室した学生は短時間の滞在で、自習室としての利用はありませんでした。

日時 2024年1月9日(火)～31日(水)

場所 生田ボランティアセンター

参加 0名

公式SNSで発信 **生田**

①公式 Instagram の活用

2023年度も公式 Instagram を活用して、生田のボランティアと社会貢献の“今”について、より一層積極的な発信に努めました。

日時 2023年4月1日(土)～2024年3月31日(日)

内容 公式Instagramをとおして生田のボランティアと社会貢献の“今”を発信する

(1) 開室カレンダーの公開

感染状況と大学活動指針に応じて変化するボランティアセンターの開室情報を、カレンダー形式でこまめに更新した

(2) 学生の社会貢献活動の紹介

活動のようすをカラー写真で具体的に伝えながら、明大生の率直な気持ちを綴った体験談を発信した。

(3) センター主催イベントの告知

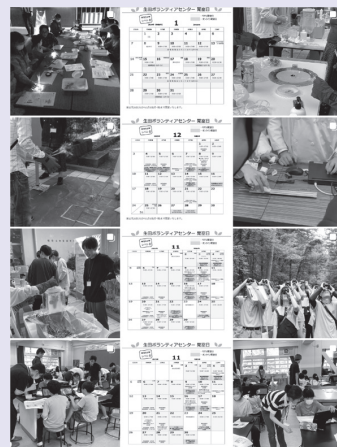
イベントポスターを掲載し、主催イベントを広報した

(4) 投稿数のコントロール

読者にじっくり読んでほしいため、投稿は1日1回に控え、少しずつ投稿した

発信 43回 体験談を寄稿した学生27名

(開室カレンダー公開18、学生の社会貢献活動の紹介20、イベント告知その他5)



▲公式 Instagram

② LINE 公式アカウントの活用

2023年度より外部団体のボランティア情報を LINE 公式アカウントを使って発信しています。年度が変わるごとに新しいアカウントに更新します。

日時 2023年4月1日(土)～2024年3月31日(日)

内容 (1) 送信対象者…生田ボランティアセンターにボランティア相談に来室した学生のうちの希望者

(2) 発信する情報…生田ボランティアセンターで公開しているボランティア情報のなかで募集期間が短いもの及びボランティアの種類の多さを伝えられるもの。

発信 35回

登録 2024年3月31日現在 56名

昼やすみ学生トーク！ 生田

大学には、いろんなことを学び、活動し、考えたり、試している学生がたくさんいます。そんな学生達によるプレゼンや交流のイベントを、2016年度から、授業期間中の昼休みに開催しています。

2023年度は大学の活動指針レベルが0になったため、定員制限をせずに対面で「学生トーク」を開催しました。また、一部のトークでは対面とオンラインとのハイフレックスとしました。オンラインリスナーは来室者の約半数でした。

このイベントの特徴はリスナーからの質問が非常に活発に出ることです。また、トーク後、参加者が感じたこと、考えたこと、質問などを付箋に書いて、発表者にフィードバックすることも恒例になっています。

日時 2023年4月18日(火)～2023年6月26日(月)
授業期間の昼休み12:50～13:20 計6回

場所 トークの場所：生田ボランティアセンター

方法 対面、対面とZoomのハイフレックス

参加 76名（担当を含む）

| 日時 | タイトル | 担当 | 方法 | 参加* |
|----------|---|------------------------------|-------------|------------|
| 4月18日(火) | しんちーむ ～福島県新地町での地域創生活動 | 農学部3年 市村 沙知、 農学部3年 小野 有佳里 | 対面 | 6 |
| 4月19日(水) | 公認ボランティアサークルLINKs ～自由参加?! LINKsの魅力を紹介! | 農学部3年 向本 暁洋、 農学部3年 九野 桃花 | 対面 | 21 |
| 4月24日(月) | 世界の足掛かりに! 人も英語も優しい国、フィジー | 農学部3年 飛松 | 対面+ Zoom | 16 (5) |
| 4月25日(火) | 学生相談 新しく教職をstartする人へ ～各講義についてもお話しします | 理工学部 荒井、佐藤 | 対面 | 4 |
| 6月23日(金) | 子どもたちに無料塾を立ち上げてみた ～子どもの6人に1人が貧困!? | 農学部2年 菊水 優太 | 対面+ Zoom | 17 (7) |
| 6月26日(月) | 多摩ニュータウン復活まちづくりで世界が広がった ～住民に寄り添ったボランティアを経験して | 農学部2年 鳴海 希亜菜 | 対面+ Zoom | 12 |
| 計 | | | | 76 (12) |

*1 学生の意思を尊重し開催時の登壇者名のまま記載

*2 カッコ内は内数のZoom参加の人数



▲オンラインと対面のハイブリット開催の様子

ランチ会 **生田**

2023年度からはじめたランチ会は、ボランティアセンターを知ってもらうことや、来室者同士の交流の機会をつくり、仲間づくりの促進を図ることを目的としています。学生同士が気軽に対話ができるようにするため、ボランティアセンターの職員は原則として成り行きを見守っています。

主にひとり暮らしの新入生を対象にした「地方人あつまれ！」や、学生の発案で開いた「趣味別ランチ会」など、対象者をある程度限定しているのが特徴です。学生からリクエストがあったテーマについては、再設定したものもあります。様々な切り口で、学生の来室動機につながるよう試行錯誤しています。

ランチ会の開催によって、学生がお互いに情報交換を行ったり、ボランティアセンター主催プログラムに参加する等の動きが見られました。



▲地方人あつまれ！

日時 2023年4月21日(金)～2023年12月22日(金)
授業期間の昼休み12:50～13:20 計12回

場所 生田ボランティアセンター

参加 79名

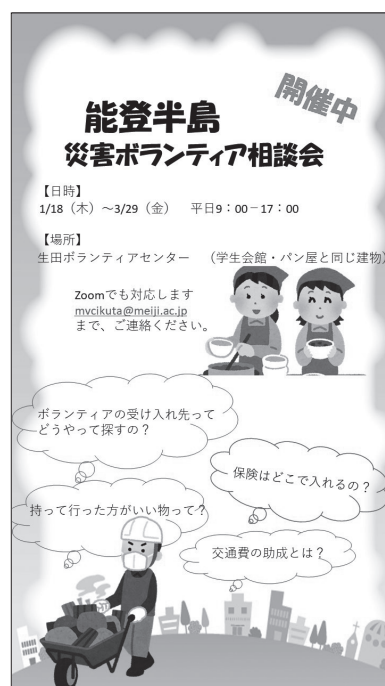
| 日時 | タイトル | 参加 |
|-----------|--------------------------------------|----|
| 4月21日(金) | 地方人あつまれ！ | 12 |
| 4月27日(木) | 留学したい人と留学生の日本語 Lunch 会 | 17 |
| 5月19日(金) | 地方人あつまれ！ | 12 |
| 7月7日(金) | 地方人あつまれ！ | 8 |
| 7月12日(水) | 脱！留年 絆作りランチ会 | 4 |
| 10月11日(水) | 脱！留年 絆作りランチ会 | 5 |
| 10月24日(火) | 地方人あつまれ！ | 1 |
| 11月22日(水) | 脱！留年 絆作りランチ会 | 2 |
| 12月4日(月) | 趣味別ともだち 自分の好き！でつながりたい ☆野球観戦が大好きだ！ | 3 |
| 12月5日(火) | 趣味別ともだち 自分の好き！でつながりたい ☆バイクが大好きだ！ | 4 |
| 12月8日(金) | ☆他大に院進決めました！ | 5 |
| 12月22日(金) | ☆他大に院進決めました！ | 6 |
| | | 79 |

ボランティア相談会 生田

ボランティアセンターの存在を学生に知ってもらうきっかけ作りとして、学期はじめや長期休み前に相談会を開きました。

ボランティアセンターでは常時開室して学生のボランティアの相談にのっています。しかし、いつも開いていると逆に、開いているという情報を学生に伝えるのが意外と無いものです。そこで、ボランティアセンターでボランティア相談にのっていることを伝えるために、一定期間を相談会としました。具体的なボランティア例を記載して学内ネットで周知すると、はじめて来室する学生、なんとなくボランティアをしてみたいが、どんなボランティアがあるのかわからないので知りたい、という学生が、とくに4月の相談会に多く来室しました。

また、2024年1月1日の能登半島地震の発生を受け、1月18日から3月末まで災害ボランティア相談会を開きました。学内ネットで周知したところ、この相談会をきっかけとしてセンターにはじめて来室した学生が多くいました。相談者のうち、少なくとも2名が被災地で災害ボランティア活動をしました。



▲災害ボランティア相談会ポスター

日時

- ① 2023年4月10日(月)～21日(金)
- ② 2023年6月5日(月)～9日(金)
- ③ 2024年1月18日(月)～3月29日(金)

場所

- ①②③生田ボランティアセンター

内容

学生のニーズを聴き、ボランティア情報を紹介する。

参加

- ①44名 ②10名 ③16名

相談会をきっかけに活動に参加した学生の声



理工学部2年 野澤 優希
私は今回、石川県穴水町のほうへ1泊2日の災害ボランティアに参加した。活動内容は、民家にお邪魔して家具や部材などの災害ゴミをトラックに載せ、集積所に運搬するといったことだった。活動中はどちらかというと移動時間のほうが長く、1日あたりの活動時間も3時間程度と短いものだったので、少々物足りなさを感じていた。しかし、訪ねた民家の方や穴水町のボランティアセンターの方たちから帰り際などに何回も感謝の言葉をいただいた。それが今回の活動のやりがいの1つになっていたと思う。ボランティアという性質上、無償の善意での活動なので、謝礼などの金銭は受け取ることはできない。だが、いただいた感謝の言葉はとてもありがたく感じ、今回の活動で私が穴水町の皆さんの役に立てたと実感することができたように思う。

対話カフェ 中野

話したり聴いたり考えを深める「対話」を体感する場を、明大生に提供することを目的として開催しています。

日時 春学期 2023年4月13日(木)～7月13日(木)
秋学期 2023年11月10日(金)～12月21日(木)

場所 駿河台キャンパス・和泉キャンパス・生田キャンパス・中野キャンパス

内容 哲学対話・当事者研究による対話カフェ

哲学対話…参加者が(輪になって)問いを出し合い、一緒に考えを深めていく対話手法。専門や立場に関わらず、誰もが対等に話し合える場所作りを目指す

当事者研究…自分が自分の研究者となって、仲間と語り合いながら、困りごとへ理解を深めたり、新たな自分を発見し定義しなおしていく試み

参加 58名(※ファシリテーターを含む)

〈春学期〉

| 日時 | テーマ | 場所 | 対話の手法 | 参加 |
|------------------------------|-------------------------------------|----------|-------|--------------|
| 2023年4月13日(木) 12:30～13:30 | 就活ほっとひといきカフェ☆ハナハナ | 駿河台キャンパス | 当事者研究 | 学生5名 職員1名 |
| 2023年4月17日(月) 12:40～13:30 | 友だちづくり、どうしよう? | 和泉キャンパス | 当事者研究 | 学生2名 職員2名 |
| 2023年4月18日(火) 12:40～13:30 | どんなジブンで大学デビューする? | 中野キャンパス | 当事者研究 | 職員1名 |
| 2023年4月20日(木) 12:40～13:30 | どんなジブンで大学デビューする? | 生田キャンパス | 当事者研究 | 学生6名 職員2名 |
| 2023年4月24日(月) 12:40～13:30 | どこでほっと一息つく? | 和泉キャンパス | 当事者研究 | 学生4名 職員1名 |
| 2023年5月15日(月) 12:30～13:30 | 地元トーク&ランチ会 | 和泉キャンパス | 当事者研究 | 学生2名 職員1名 |
| 2023年6月12日(月) 13:30～14:30 | 就活の悩みをみんなで話してみる研究会～自分が向いていることってなに?～ | 和泉キャンパス | 当事者研究 | 学生1名 職員1名 |
| 2023年7月13日(木) 12:40～13:30 | 問いを決めて哲学対話しませんか? | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生4名 職員1名 |

〈秋学期〉

シリーズ①『AIについて考える対話』

| 日時 | テーマ | 場所 | 対話の手法 | 参加 |
|-------------------------------|-------------------|---------|-------|--------------|
| 2023年11月10日(金) 14:00～15:30 | どうしたら、AIを上手く使えるの? | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生2名 職員1名 |
| 2023年11月16日(木) 14:00～15:30 | AIと人の未来はどうなっている? | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生3名 職員1名 |
| 2023年11月21日(火) 14:00～15:30 | 人とAIの違いって何? | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生1名 職員1名 |

シリーズ②『哲学ファシリテーター養成講座』

～対話を実践しながら、哲学する場所を作れる人になろう!!～

| 日時 | テーマ | 場所 | 対話の手法 | 参加 |
|-------------------------------|----------------------------------|---------|-------|--------------|
| 2023年11月30日(木) 14:00～15:30 | コミュニティボールを作ってみよう。 哲学対話の八つのルール | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生2名 職員1名 |
| 2023年12月7日(木) 14:00～15:30 | 「問い」を出すことの重要性。聞く姿勢を示す | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生3名 職員1名 |
| 2023年12月14日(木) 14:00～15:30 | 実践編：ファシリテーションを見てみよう | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生5名 職員1名 |
| 2023年12月21日(木) 14:00～15:30 | 実践編：対話するってなんだろう？ | 中野キャンパス | 哲学対話 | 学生3名 職員1名 |

参加学生の声



文学部4年

印象に残っていることは二つあります。まず、哲学対話は、必ずしも結論に至らなくてもよく、開かれたまま対話が終わることもあること。次にファシリテーションに関して。知的・感情的・時間的自由さがある程度保証されていることが重要なのだと感じました。

私のなかでまだ理解出来ていない点として、哲学対話の由来があります。「アカデミックな哲学者の言っていることが小難しく分からない」という現状に対する解決運動の一種というのが私の認識です。けれども、それを受けて具体的に哲学対話は何を目指しているのかよく分かりません。より多くの人に哲学的なものの考え方を普及させるためにあるのでしょうか。それとも哲学という領域に縛られていない、もっと広いことを目指している運動なのでしょうか？

理工学部4年 前田 武流

人の話を聞くことや考え続けることの難しさを感じました。私は普段からたくさん考える方だと思っていたのですが、哲学対話を体験したあと、実は普段あまり深く考えてはいないのかもしれないと思いました。それは哲学対話で深く深く考えたときに疲労を感じて、こんな経験あまりないと思ったからです。それから似たような理由で、人の話も自分が思っているよりずっと聞き流しているのかもしれないと思いました。

自己認識の変化は、今回参加して良かったと思う理由のひとつです。「考えすぎだよ」「よく考えているんだね」と言われることが多く、性だからしかたないと思う一方で窮屈に感じていたため、考え続けても否定されない、思う存分考えても足りないくらいな空間が心地よかったです。日常と離れた貴重な経験ができました。ありがとうございました。

総合数理学部1年 内藤 脩平

私が実際に哲学対話に参加してみて感じたことは、「これ、めっちゃ気持ちいい！」でした。通常は物事を深く考えるということは面倒くさいし、周りの空気を読まずに徹底的に自分の思いをぶちまけると他人と意見が対立することは避けられません。しかし哲学対話では参加者全員が「何を言ってもいい」というルール（ルールは全部で8つあります）を承知しているため、意見の対立があってもそれが「喧嘩」になることはまずないですし、何より、自分に嘘をつかずに物事を考えるという経験ができます。これがとても清々しいのです。

実は哲学対話のプラスの影響は日常会話、ひいては人生そのものにまでもたらされます。なぜなら哲学対話を行うことによって、「分からなくなってもいい」というルール、いや、もはや価値観が自身の奥底にまで染み込むからです。この世には分かることよりも分からないことの方が圧倒的に多いことはもはや言うまでもないでしょう。だからこそ、分からないものに対していちいち不安がるよりも、それに対してワクワクする方が絶対に人生楽しくなります。「あー！また分からなくなった…けどめっちゃワクワクするな～」という気持ちを持てること、これが哲学対話をする一番のメリットであると私は思っています。

明治大学では今後も中野キャンパスで哲学対話を行う予定です！（私が企画を引き継ぐことになっています）

これを読んで少しでも哲学対話に興味を持っていただけたなら、是非足を運んでみてください！哲学対話を通して、一緒に人生を豊かなものにしましょう！

企画学生の声



先端数理科学研究科 M2 大塚 拓海

春学期は新入生向けの企画「新学期症候群」を実施した。

当事者研究の実践では、自分たちが困難に抱えていることや、困っていることに「病名をつける」という取り組みがある。そこで新学期に感じている不安を病名に例えて、テーマを作ることにした。「大学デビューをどうするのか」、「大学の中でホッとできる場所をどう作るのか」、「友達づくりはどうすればいいのか」。この三つのテーマで、自分の所属している中野キャンパスとは違う場所で対話をしてみたい気持ちがあり、いろいろなキャンパスを回って開催した。和泉キャンパスでは自分の出身が地方であることを話してくれた学生がいた。その学生に共感して苦労を共有してくれる学生もいた。それをきっかけに、新しいテーマを思いつき地方出身の学生が集まって対話をする「ジモトーク」という企画もできた。

秋学期は、自分の研究テーマである「COMBO」というロボットを使って対話をした。COMBOとは、マイクを搭載した丸い形のロボットで、難聴の人のための字幕を音声から作り出したり、「もこっ」と声を出して、対話に参加したりできる。参加者からの了承を得て、360度カメラで対話の様子を録画して、COMBOの反応や字幕の表示方法などを模索しながら研究に活かすことができた。

また、継続して参加できるように「AIについて」や「哲学対話ファシリテーション入門」というシリーズにして、曜日と時間を固定した。AIについての対話では、AIについて様々な分野を学んでいる学生が参加してくれたので、刺激的な対話になった。対話の内容でも、COMBOというロボットを使っていることに刺激を受けた発言が多かった。

今年が卒業なので、今までの対話の経験から得たことや、学んだことを多くの人に広めたいと思い、対話しながら対話のワークショップについて学ぶ「哲学対話ファシリテーション入門」という企画を立てた。「聞くこと」、「問いかけること」、「テーマの決め方」など、対話を企画する際にどのようなことを考えているかを説明し、色々な人が対話に参加できるようになるにはどうしたらいいか？を考えたり、実際に「聞くこと」を意識したりして対話をした。

結果として、対話の企画をやりたいという人が出てきて、継続して参加しているメンバーとの繋がりや交流が生まれ、「対話について考える」場所を作ることができた。

ボランティアを通して伝えたいこと

修士課程を卒業するまで、手話カフェ・対話カフェハナハナを通して、長い間ボランティア活動で、人と人が交流する場所を企画することができました。初めは「一緒に何かする人を集めたい」という思いで、ボランティア活動をしましたが、今では人と関わること、まだ会ったことのない人の話を聴くことが、自分の人生や進路においてとても大切にしていきたいライフワークになってきました。これからもボランティアや、自分から企画することを通してさまざまな人との出会いを大事にしたいと思います。

ボランティアセンターでは「こんなことをしてみたい」というと、職員さんや、他の学生、ボランティアサークルの人たちが集まって、自分にできることを考えてくれます。学生同士が対話する企画は今までになかった企画ですが、いろんな人の協力のおかげもあり、コロナ禍から対面になった今も継続することができました。そして、今年は新しいメンバーによって研究活動や企画も始まります。ぜひ色々な人に、参加して活動に加わってもらえたらと思います。



▲テーマ「就活ほっとひといきカフェ☆ハナハナ」
(駿河台キャンパス ラウンジパープル)



▲テーマ「どんなジブンで大学デビューする？」
(生田キャンパス)

韓国語教室 中野

中野キャンパスでは、明大生が明大生に韓国語や韓国文化を教えながら異文化交流を行う教室を毎年開催しています。

日時 春学期 2023年5月11日(木)～7月6日(木)

秋学期 2023年10月23日(月)～12月12日(火)

場所 駿河台キャンパス・和泉キャンパス・中野キャンパス

内容 明大生が明大生に語学や文化を教える活動や文化交流を行う

参加 372名

〈春学期〉

| クラス | 日時 | 場所 | 回数 | 講師学生 | 受講学生 |
|-------|---------------------------------------|----------|----|------|------|
| 木曜クラス | 2023年5月11日(木)～7月6日(木) 11:00～12:00 | 駿河台キャンパス | 9回 | 18名 | 38名 |
| 金曜クラス | 2023年5月12日(金)～6月30日(金) 13:30～14:30 | 中野キャンパス | 8回 | 32名 | 39名 |

〈秋学期〉

| クラス | 日時 | 場所 | 回数 | 講師学生 | 受講学生 |
|-----------|---|---------|----|------|------|
| 中野・月曜クラス | 2023年10月23日(月)～12月11日(月) 13:30～14:30 | 中野キャンパス | 6回 | 29名 | 32名 |
| 和泉・月曜クラス | 2023年10月23日(月)～12月11日(月) 12:30～13:30 | 和泉キャンパス | 7回 | 14名 | 25名 |
| 和泉・火曜クラス① | 2023年10月24日(火)～12月5日(火) 12:40～13:20 | 和泉キャンパス | 6回 | 18名 | 24名 |
| 和泉・火曜クラス② | 2023年10月24日(火)～12月12日(火) 13:30～14:30 | 和泉キャンパス | 7回 | 14名 | 51名 |
| 和泉・金曜クラス | 2023年10月27日(金)～12月8日(金) 15:20～16:50 | 和泉キャンパス | 5回 | 15名 | 23名 |

講師学生の声



国際日本学部・研究科2年 糠信 美希

(秋学期 中野キャンパス 月曜日クラス担当)

私は、講師学生の中で唯一の日本人ということで、講師という立場だけではなく、学生側の立場としての意見を求められる場面も多く、客観的な立ち回りができました。講師学生と受講学生の間で、日韓の架け橋のような活動ができたことに、達成感を得ることができました。また、日本人である自分が学んできた方法だからこそ、日本人の韓国語学習者にわかりやすく伝わる部分があったように感じ、やりがいを感じました。講師同士での授業の打ち合わせ、メッセージのやり取りなどはすべて韓国語で行われるので、とても新鮮で、貴重な経験になりました。

講師として楽しく活動できたのは、日本人の私を受け入れてくれた講師の韓国人学生の皆さん、熱心に授業に参加してくれた日本人学生の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

文学部3年 チェスビン

(秋学期 和泉キャンパス 火曜日クラス(3限)担当)

受講生8人の学生のうち4人は日本文化圏の学生、残りの4人はオーストラリア、台湾、中国、ドイツ文化圏の学生でした。多様な国籍があるだけに授業活動時間に色々な文化に対する話を共有することが

できました。文化圏の幅が広い分、韓国語の実力の幅もとても広がったため、授業を準備し進めることは決して簡単なことではありませんでした。しかし、最初はハングルも読めなかった学生たちが熱心に勉強し、韓国語で発表までできるようになった時、本当に大きなやりがいを感じました。また、“韓国語”という共通の関心事で様々な国籍の学生たちと交流をして友達になれるという点が本当に魅力的でした。

韓国で多文化韓国語教育学を勉強している学生として今回の活動は本当に貴重な経験だったと思います。私は交換学生生活が終わって韓国に帰ることになりますが、次に来る韓国人交換学生たちがこの活動にもっと多く参加してほしいと願っています。

法学部2年 ジンソンヒ

(秋学期 和泉キャンパス 金曜日クラス担当)

私たちは毎週金曜日に1時間30分間、中級レベルの韓国語教室を運営しました。

ラインで韓国語のチャットをしてみたいという学生の意見で、その日に学んだ内容をもとにラインで連絡をしました。日常生活の中で使われる単語や表現を学ぶには韓国人と直接会話したり連絡したりする方法が一番良いと考えたからです。学生たちに聞いてみたら、韓国人とラインで連絡する機会があまりなくて新鮮だったし、勉強した内容を直接活用できて良かったと言ってもらえて嬉しかったです。

学生たちが熱心に韓国語勉強をして積極的に授業時間に質問をする姿を見ながら、このボランティアに参加して本当に良かったと思いましたしやりがいを感じました。最後の授業で日本人学生がクッキーを渡しながら韓国語で今までありがとうと言ってくれた時の瞬間は人生で忘れられないと思います。

参加学生の声



法学部2年 高山留依

(秋学期 和泉キャンパス 火曜日クラス (3限) 受講)

私の参加した韓国語教室では、2名の韓国人留学生が韓国語を教えてくれました。毎回、見やすいスライドが用意されており、事前にグループラインで共有されるため、予習・復習がしやすかったです。TOPIK (韓国語版のTOEICのようなもの) の相談もできたのでとても助かりました！また、教室外で食事会やクリスマスパーティなどのイベントも企画していただいたため、生徒同士で仲を深めることができました。教室は終了してしまいましたが、今後も学んだことを生かして、韓国語の学習を続けていきたいと思っています。来年もこのような教室があれば、是非参加したいです！



▲春学期 駿河台キャンパス 木曜日クラス



▲春学期 中野キャンパス 金曜日クラス



▲秋学期 中野キャンパス・月曜日クラス



▲秋学期 和泉キャンパス・月曜日クラス



▲秋学期 和泉キャンパス・火曜日クラス（昼）



▲秋学期 和泉キャンパス・火曜日クラス（3限）



▲秋学期 和泉キャンパス・金曜日クラス

中国語教室 中野

中野キャンパスでは、明大生が明大生に中国語や中国文化を教えながら異文化交流を行う教室を毎年開催しています。

- 日時** 春学期 2023年5月11日(木)～7月4日(火)
秋学期 2023年10月23日(月)～12月11日(月)
- 場所** 駿河台キャンパス・和泉キャンパス
- 内容** 明大生が明大生に語学や文化を教える活動や文化交流を行う
- 参加** 63名

〈春学期〉

| クラス | 日時 | 場所 | 回数 | 講師学生 | 受講学生 |
|-------|---------------------------------------|----------|----|------|------|
| 火曜クラス | 2023年5月16日(火)～7月4日(火) 13:30～15:00 | 和泉キャンパス | 8回 | 15名 | 33名 |
| 木曜クラス | 2023年5月11日(木)～6月29日(木) 15:30～16:30 | 駿河台キャンパス | 7回 | 12名 | 26名 |

〈秋学期〉

| クラス | 日時 | 場所 | 回数 | 講師学生 | 受講学生 |
|-------|---|---------|----|------|------|
| 火曜クラス | 2023年10月23日(月)～12月11日(月) 15:20～17:00 | 和泉キャンパス | 7回 | 27名 | 36名 |

講師学生の声



国際日本学部3年 Chang Tsan Hsuan
(春学期 駿河台キャンパス 木曜日クラス担当)

最初は中国語や台湾と中国の文化を発信し、人前で話すことを克服することを目的として中国語教室の学生講師として参加することに決めました。実際に実行する際には、資料の作成や内容の準備などが大変で、時折諦めたくなる瞬間もありました。しかし、参加者の学生が興味津々で熱心に聞いてくれる姿を見たり、講座の後に「今日も面白かった!」というポジティブなフィードバックをいただいたりすることで、大きなやりがいを感じました。また、参加者が自身の経験や日本の文化をシェアしてくれることにより、毎週楽しい時間を過ごしました。講師と講師、参加者と講師、そして参加者同士といった関係を通じて、友達のようにお互いの言語を学んで異なる文化を尊重し、異文化交流の重要性を実感することができました。

教養デザイン研究科2年 高暢
(春学期 和泉キャンパス 火曜日クラス
秋学期 和泉キャンパス 火曜日クラス担当)

春学期および秋学期において、私は中国語教室で教師として従事しました。春学期においては初めての経験であり、参加した学生たちの期待や要望を十分に把握できませんでした。しかし、秋学期に進むにつれ、少しずつ理解が深まったと感じています。単なる中国語の教授においては、専門の教育者がより高度なスキルを有していることが一般的ではありますが、この中国語教室においてはむしろ他の場所では得られない中国人留学生との対面交流が最も重要であるとの認識に至りました。

秋学期からは、教室を二つの部分に分け、一部では担当者が中国の言語と文化を紹介し、残りの時間は担当者と学生たちがコミュニケーションを図る場としました。

中国語教室は単なる言語学習の場にとどまらず、同時に中国の文化の本質に触れる場であり、通常気づかないであろう日中文化の差異や日本文化の特徴に気づく場でもあり、また、日中両国の人々が効果的にコミュニケーションをとるための空間でもあると考えています。ここでは友達を作り、思想文化の深層に迫り、充実した大学生活を楽しむことが可能だと思います。もし可能であれば、来年も再び参加して、より一層充実した経験をしたいと考えています。

政治経済学部 3年 LIU BAICHUAN
 (春学期 和泉キャンパス 火曜日クラス
 秋学期 和泉キャンパス 火曜日クラス担当)

1年間和泉キャンパスで中国語教室の活動に参加させていただきました。

春学期は中国出身の2人による2人体制で、秋学期の教室では、中国本土からの留学生だけでなく、台湾からの留学生も講師学生に加わりました。これによる教室の変化は非常に大きいと感じます。これまでに文化を取り上げる際に、どうしても「中国本土」の事情に限定せざるをえませんでした。台湾の留学生が加わったことによって、台湾の文化も紹介することができました。

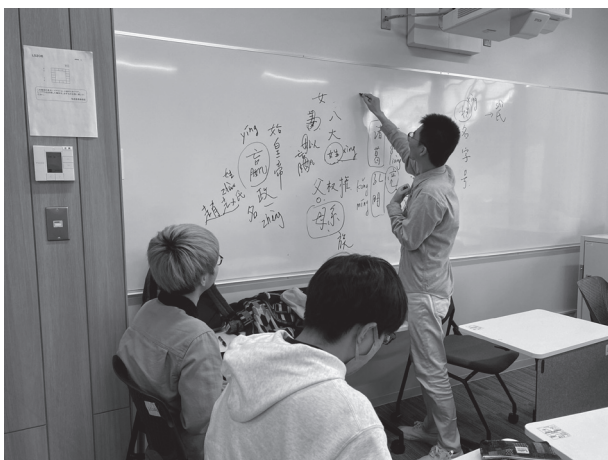
中国語は「中国」という国名を冠していますが、決して中国語が中国だけのものではありません。中国本土以外にも、香港・マカオ・台湾などの地域や、マレーシアやシンガポールなどの国にも多くの中国語話者が存在しています。さまざまな場所で独自の文化が存在しています。台湾の留学生が教室に参加したことによって、受講生に違う一面の中国語や違う一面の「中華文化」を紹介することができたのではないかと考え、非常に嬉しく思います。

中国語教室は、留学生と日本人学生が交流する場にもなったのではないかと思います。秋学期の教室を通じて、個人的に仲良くなった人が何人かいます。仲良くなった参加学生と一緒にご飯を食べるようになった講師学生もいました。語学教室を国際交流の場にする、という観点から見ると、私たちの活動は成功したと言えるのではないかと非常に感じます。

最後に改めて、支えていただいた仲間たちに感謝の意を申し上げます。



▲春学期 駿河台キャンパス



▲秋学期 和泉キャンパス グループワークの様子

パトラン明治大学支部キックオフセレモニー 和泉

和泉ボランティアセンターの提案により2023年9月より始まったパトラン活動が、「パトラン明治大学支部」として認定されました。2023年度、日本財団からの支援で始まった「パトランクラブチーム for School」として大学では初めてのチーム認定です。

パトランとは、「パトロール」と「ランニング」を組み合わせさせた造語で、市民が健康維持を目的としたランニングを行いながら地域の様子を観察し、異変があれば声のかけ合いや警察への通報、行政への連絡など、子どもや女性、お年寄りが安心して暮らせる地域社会の実現に向けて市民が主体となって行う取り組みです。

セレモニーでは、パトラン Japan 代表の立花祐平氏(2008年商卒)からパトランに関する説明の後、ロゴマーク入りのビブス、腕章、のぼり、ライトが贈呈され、また明大前商店街振興組合の方のご挨拶では激励の言葉をいただきました。今後、パトラン明治大学支部は和泉ボランティアセンターと協力しながら、主にキャンパス周辺でのパトランを実施していき、地域との繋がりを深めていく予定です。



▲ポスター

| | |
|-----------|--|
| 日時 | 2024年3月6日(水) 10:30~11:30 |
| 場所 | 和泉キャンパス |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・チーム代表挨拶 ・パトラン概要の紹介 ・来賓あいさつ ・チーム認定証及び供与品の授与 ・デモンストレーションパトラン (雨天中止) |
| 参加 | 学生17名、パトラン運営関係者4名、明大前商店街振興組合1名、取材2名、教員1名、職員4名 |



▲集合写真



▲セレモニーの様子

杉並区高齢者との「Ocha-kai」 和泉

和泉ボランティアセンターでは、地域包括支援センター「ケア24永福」と連携し、近隣地域にお住まいの方々と互いに交流を深め、安心して生活できる地域づくりを目指した「Ocha-kai」を定期的に行っています。学生達が交流企画の検討・運営を担い、ボランティアセンターでサポートをしています。これまでに、数多くの地域の方にご参加いただき、長年の活動が認められ、2021年度は杉並区より「青少年善行表彰」をいただいています。

2023年度は新しい試みにも挑戦しようと、まず名称を「お茶会」から「Ocha-kai」へ表記変更し、第1回「Ocha-kai」はパラスポーツ「ボッチャ」を取り入れました。学生達はボッチャのコーチ資格者のボランティア副センター長 政治経済学部 後藤光将 教授より指導を受け、「ボッチャ」を学び、交流を楽しみました。年齢が異なる者同士でもすぐに打ち解けられる「ボッチャ」は大変盛り上がり、手ごたえを感じた会になりました。

「久しぶりにこんなに笑った」、「おしゃれをしてきた」、「たのしみでウキウキしていた」と、参加される地域の方々は、いつも開催を喜んでくださり、それが学生達の大きな励みにつながります。「Ocha-kai」は、全員で協力して作り上げるとても素晴らしいチームです。異なるバックグラウンドを持つ人々との交流を通じて新たな視点やアイデアを得ることで、さらに成長していくことと思います。

今後も地域の方々と繋がりを持ち続けられるように取り組んでいく予定です。

〈第1回〉

日時 2023年6月3日(土) 14:00~15:30

内容 ・ボッチャ
・テーマを決めて歓談

参加 学生13名、地域の方8名、ケア24永福職員4名、職員2名



▲ボッチャで交流



▲歓談の様子

〈第2回〉

日時 2023年12月9日(土) 14:00~15:30

内容 ・バルーンバスケット
・「対義語伝言ゲーム」
・テーマを決めて歓談

参加 学生9名、地域の方10名、ケア24永福職員4名、職員2名



▲バルーンバスケット



▲集合写真

〈第3回〉

日時 2024年3月16日(土) 14:00~15:30

内容 ・手作りもぐらキャッチゲーム
・グループに分かれて大学内を散歩しながら歓談

参加 学生7名、地域の方7名、ケア24永福職員4名、職員2名



▲集合写真



▲ゲームの様子

参加学生の声



商学部2年 宮西ようか
お茶会に参加して一番よかったと思ったのは、視野が広がったことです。高齢者の方々と戦争のことや海外と日本の関わりについて話をした際、私達より身近に感じている世代の経験したことを直接聞ける貴重な時間になりました。また、お孫さんのお話をする時はとても笑顔でお話をなさっていて、ほっこりしました。祖父母と似た年齢の方ともお話をしましたが、祖父母とは話さない内容のお話も聞けました。

また、お茶会の事前準備の際も良い経験ができました。お茶会は年に3回開催されています。メンバーはお茶会が成功するように会議を重ねながら仲良くなり、アイデアを出し合えるようになりました。また、少人数ながら司会や説明担当など分担することで責任感を持って行動することができました。私は、ポッチャという競技の説明をしましたが、ルールを全く知らない方が簡単に理解するにはどうしたら良いかを考えることにとても苦労しました。しかし、メンバーに相談すると自分では気付けなかった問題点や改善策を見つけてくれ、担当を任されたことに執着しすぎていたことに気付きました。このようにお茶会の本番だけでなく、準備のうちからたくさんの経験ができ、参加してよかったと感じました。

法学部2年 末田詩織

私は6月のお茶会で3回目の参加となりました。今回のお茶会では、レクリエーションとしてポッチャを行ったり、歓談の際にお菓子を食べながら行ってみたい場所を話したりしました。参加者の方々の笑顔を様々な場面で見ること、楽しかったという感想を多くいただくことが出来、心からうれしく思います。

そして、お茶会で楽しむことが出来るのは、お招きした方だけではありません。学生ボランティアとして参加した私も、一緒にポッチャに挑戦したり、歓談で昔話を聞いたり、とても充実した時間を過ごせました。また、私だけでなく参加した他のメンバーからも、楽しかったという感想を聞くことが出来ました。以前、メンバーからお茶会について、「楽しんでいただくだけでなく、自分たちも楽しい気持ちになれる」と話を聞いたことがあるのですが、今回のお茶会でその意味を深く実感することが出来ました。

今回のお茶会が心温まるものとなったのは、多くの方々と一緒にお茶会を作り上げられたからだと感じています。所属が駿河台キャンパスでありながら、和泉ボランティアセンターでお茶会の準備や運営と一緒に取り組んでくださった3年生の先輩方。自らの授業やバイト、サークルで忙しい中、積極的に一緒に企画や運営に取り組んでくれた1、2年生。そして、当日参加してくださった方々。まだここには挙げ切れていないほど多くの方々と一緒にお茶会として活動出来たからこそ、お茶会が誰にとっても幸せでとても素敵な会になったと思っています。

お茶会は、私にとって、様々な方と共に準備や運営を行い、「お茶会」に来てくださった方に楽しんでもらえる、そして自らも楽しめる、本当に充実感にあふれたボランティアです。これからも機会があればぜひお茶会に参加したいと思っています。

秋のお楽しみ会 和泉

2012年度より2019年度まで継続して参加していた杉並障害者福祉会館での「福祉会館まつり」は2022年度以降、「秋のお楽しみ会」と名前を変えて催され、2023年度も引き続き、公認ボランティアサークル「しんちーむ」の学生が運営スタッフとして参加しました。つながりを途切れさせず活動を続ける事や、支え合う関係性の大切さを再確認することができる機会となりました。

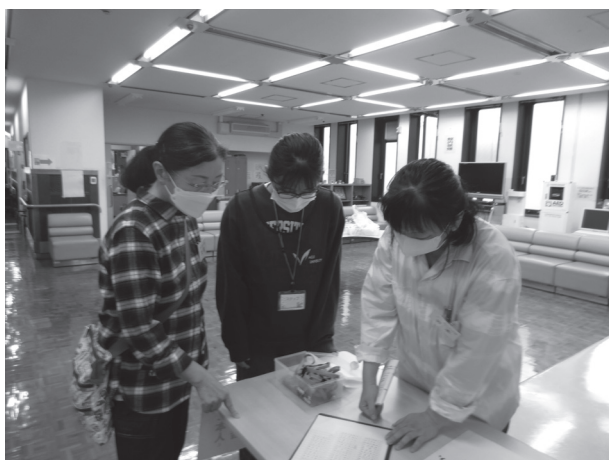
日時 2023年10月15日(日) 10:30~15:30

場所 杉並障害者福祉会館

内容 会場設置、受付、参加者のお手伝い(マジック)

参加 2名

主催 杉並障害者福祉会館運営協議会



▲受付の様子



▲お楽しみ会の様子

参加者の声



法学部4年 渡部 隆介

2022年度に続き、2023年度も秋のお楽しみ会のボランティアに参加させていただきました。

2023年度はコロナ禍がかなり収まったこともあり、合唱団の方々など参加者も増えていてとても盛り上がっていました。私自身、障害者の方とは日常生活であまり触れあうことはなく、昨年の秋のお楽しみ会以来でした。今年も参加団体がつぎつぎに発表し、観客がそれを盛り上げて一体感が生まれていくところが強く印象に残っています。そのような安心できる場が、地域に根差し続けるということも大事だと思いました。

私は来年度から公務員として社会人になります。これから働いていく中でも、このような施設や地域で安心できる場の大切さと、そこで働いてくださっている職員の方々やボランティアの方々への感謝を忘れないようにしたいです。また、職場の外にも目を向けて、現場へ足を運び、現状を把握できる職員になりたいと思います。私が公務員試験を受けた際に、何の仕事に携わりたいかと聞かれました。2つ答えましたが、そのうちの1つが障害者福祉です。昨年の秋のお楽しみ会のボランティアをした際に、楽しんで参加されている姿に感動し、このような方々が不自由なく暮らしやすい地域を作りたいからと答えました。いつか何らかの形で障害者福祉に携わる際には、この活動で感じたことを大切にし、みなさんに信頼される職員になれるように一生懸命頑張ります。

障がい者・高齢者体験 和泉

和泉ボランティアセンターでは、学生にもっと気軽にセンターに足を運んでもらおうと、センター内で障がい者・高齢者体験を実施しました。高齢者・障がい者模擬体験装具を着用し、心身の苦痛、快、不快を感じ取ることを、学生自らが五感を使って疑似体験し、いかに今、不自由のない生活が送れているかを十分に実感した体験となりました。どの学生も装具を着けて僅か数メートル歩くだけでも汗ばむほどで、高齢者に対する認識が変わり、手助けの必要性を感じていました。体験後は、高齢者や目の見えない方が視界に入ってくるようになり早速お手伝いできたという報告に来た学生もいました。

また、体験後には、家族支援のあり方や社会的介護のあり方についても考えるきっかけになってもらえればと、併せてアンケートを実施しました。

日時 2023年10月20日(金)・23日(月) 10:00~17:00
2023年10月24日(火)・25日(水) 10:00~13:00

場所 和泉ボランティアセンター

内容

- ・高齢者模擬体験セットを装着し荷物を持って歩行
- ・白杖及びアイマスクを着用し歩行または手引き歩行を行う
- ・点字器で名刺などを作成

参加 19名



▲高齢者疑似体験



▲高齢者疑似体験歩行ルート



▲点字体験



感想

アンケート (Google フォーム回答)

①今回のイベントについて、どこで知りましたか？

Oh-o! Meiji、和泉ボランティアセンター公式 LINE、ボランティアセンターのポスター。

②感想

- ・おもりなどで体が自由に動かない感覚を体験でき、とても良い経験になりました。特に杖の重要性と手を腰に置いてしまう気持ちが本当に理解できました！！
- ・街中や電車内にいる高齢の方により優しく接することができそうです。
- ・街中でよく見かける光景を実際に体験できて良かったです。
- ・目の見えないということがこんなに怖いということが初めてわかりました。
- ・普段体験できないことをでき、学びになりました。
- ・高齢者の体験はとても新鮮でした。
- ・将来元気なおじいちゃんになりたいと感じた。
- ・点字体験をやってみたかったので、ここで出来て良かったです。

クリスマス音楽会 和泉

杉並障害者福祉会館で行われた「クリスマス音楽会」の演目のトップバッターとして、津軽三味線サークル「響」が参加しました。クリスマスの曲を含めた全5曲を演奏し、津軽三味線の豪快で美しい音色が会場内に響き渡りました。来場者の方々は曲に合わせて歌ったり、リズムを取ったりして盛り上がっていました。クラシック演奏、腹話術のアトラクションも行われ、楽しい会にすることができました。

日時 2023年12月10日(日) 13:30~14:30

場所 杉並障害者福祉会館

内容 【曲目】

- 覚醒 (津軽三味線集団 疾風)
- ソーラン節
- 津軽じょんがら節六段
- クリスマス曲：ジングルベル あわてんぼうのサンタクロース
- 隼 (柴田三兄弟)

参加 5名 (津軽三味線響)

主催 杉並障害者福祉会館運営協議会



▲演奏の様子



感想

政治経済学部2年 村井 宥允
現代曲、民謡の定番曲にプラスして、今回のために練習してきたクリスマス曲も演奏させていただきました。演奏前から皆様の楽しみにする声が聞こえ、クリスマス曲では一緒にサイリウムを振ってくださったり、歌ってくださったりと、とても楽しく演奏させていただきました。

参加者の皆さんが「楽しみにしていた」、「素敵だった」と声をかけてくださったのがとても印象に残っています。初めてこのような少人数での演奏の場に参加するメンバーもいる中、会場のとても暖かい雰囲気に助けられました。

演奏後に他の出演者の皆さんのステージも見させていただき、参加者の皆さんともより近くで交流することができ、とても貴重な機会でした。

今回の演奏会が12月の代替わり後、初めての演奏の機会で、私も他のメンバーも緊張していました。参加した中には入部して一年も経たないメンバーもあり、私を含めみんなが慣れない中での参加でしたが温かい声援や、楽しそうな笑顔に緊張はしながらも楽しく演奏させていただきました。2022年度に引き続きこのような演奏の機会をいただけてとてもうれしく思っております。また機会がありましたら是非参加させていただきたいです。

ブラインド卓球大会 中野

特定非営利活動法人 中野区視覚障害者福祉協会の依頼で、ブラインド卓球大会のボランティア活動に参加しました。

| | |
|-----------|--|
| 日時 | 2024年3月17日(日) |
| 場所 | 中野区立総合体育館 |
| 内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・出場選手の誘導 ・ボールパーソン（試合中のボール拾い） ・カウンター（試合中の得点係） ・会場整備等 |
| 参加 | 10名 |
| 主催 | 特定非営利活動法人 中野区視覚障害者福祉協会 |
| 共催 | 中野区立総合体育館 |

ブラインド卓球とは

通常の卓球で使うボールの中に金属の粒が入っているものを使って、卓球台の上をラバーのないラケットで打ち合い、ネットの下を転がして行う卓球のことです。STT（サウンドテーブルテニス）とも呼ばれ、視覚に障がいのある方たちを中心に楽しまれています。

参加者の声



法学部2年 A・M
 中学・高校と卓球部に所属し、今でもときどき地元の卓球クラブで活動するくらいに卓球が大好きなため、障がいのある無しに関わらず、全ての人が楽しめる卓球があるということに非常に興味を持ち、ぜひその活動に携われたらと考え参加しました。もっとも強く感じたことは、円滑なコミュニケーションを図るためには、健常者からの歩み寄りだけでなく、障がいをお持ちの方からのアプローチも大切なのだということです。

今回、私のぎこちない寄り添い方でも、相手の方が快く、優しく受け入れてくれたから、互いに楽しくコミュニケーションがとれたのだと思いました。今回は視覚障がい者の方とのかかわり合いだったため、声掛けが非常に重要でした。普段は相づちをすれば相手に「私は聞いているよ」とアプローチできますが、それを声で表さなければならぬため、普段との違いに注意して、視覚障がい者の方へ意識的に声を出していかなければならないと感じました。

法学部1年

実際に参加してよかったと感じたことが2点ある。まず1点目は、視覚障がい者の方への接し方を、身をもって学べたことだ。インクルーシブ教育等が盛んに叫ばれる今日において、私たちの世代は幼いころから障がいを持った人々と共に生活を送ってきたはずである。しかし、いざ振り返ってみると活動参加前の私は、視覚障がい者の方への接し方は何も知らなかった。そして思うに、私が今まで学んできたのは、障がい者を特別視しないということのみに尽きるようであった。それでは彼らが困っている姿を見かけたときに誤ったサポートによって、逆に彼らを危険にさらしてしまうのではないか。そのような現状への焦りと単純なブラインド卓球への興味から、私はこの活動への参加を決めた。活動の中では視覚障がいを持った方への接し方を一から丁寧に教えていただき、実践における選手の誘導を通して経験も積むことができた。

2点目は選手の方々のプレーから、楽しむことの重要性について再認識したことだ。大会の中で選手の方々が時折雑談もはさみつつ、楽しそうにプレーをしていた姿が印象に残っている。私は高校までスポーツをやっており、現在もスポーツ中継を観戦することがあるが、あれほどまでに心を躍らせてスポーツをしている選手を見たのは初めてであった。スポーツの語源は「楽しむ」ことにあると言われていた。しかし現代ではスポーツの意義は結果の勝ち負けだけで語られることが多いように感じる。勝ち負け関係なく「楽しそう」にプレーしていた選手の姿からは、スポーツの本来の意義やその可能性について認識させられた。

情報コミュニケーション学部1年 儘田大夢

私が想像していたよりも選手それぞれが楽しそうで真剣だったことが印象に残りました。そしてサウンドテーブルテニスのルール自体が面白いと感じました。健常者でも目隠しすることで同じ条件でプレーができるというのが良いルールだと感じました。パラリンピック（障がい者スポーツ）がもっと身近になるにはプレーを通して選手の上手さを体感することだと今回の経験を通して強く実感しました。

今回のボランティアで惜しいと思ったのは、ボランティアという名目で集まっているので仕方がないことかもしれませんが、実際にサウンドテーブルテニスをプレーできなかったことです。選手のプレーに対してボールパーソンを行いながら観戦している際に、プレーがすごいことは確かにわかります。ただ実際にプレーをしていないので表面的な部分でしか選手の凄さを理解できなかったことが悔しかったです。

私がこのボランティアで意識したことは選手と一緒に楽しむことです。選手の目線で考えたときに補助している私たちボランティアが楽しんだ方が、選手が気を遣う必要がなくなります。そしてプレーにも集中できます。今回のボランティアを通して、学んだことが沢山あり、私自身の視野を広げる貴重な経験になりました。これからは学校内外問わず積極的にボランティアに参加をしていきたいです！



▲ブラインド卓球大会のボランティア活動の様子

車いすトークライブ「〇〇な人。」駿河台**日時** 2023年12月8日(水) 12:40~13:20**場所** 駿河台キャンパスリバティタワー 2階 ラウンジパープル内**内容**

- 10万人に1人の難病って？
- 車いすは私の脚
- 障がい者ってこんなもん テーマでトークライブを行う

参加 学生4名、教職員7名**【実施の経緯】**

企画立案者の公認サークル「心身障害者福祉会しいの実」の学生が、難病 SMA（脊髄性筋萎縮症）を患いながらも自立した生活を送る車椅子インフルエンサー MEG さん宅に訪問介護のアルバイトをしていました。その中で「大学でトークライブをし、若い人に自分の病気や車椅子ユーザーに対する理解を深めてもらいたい」という MEG さんの思いを受け、「心身障害者福祉会しいの実」主催の企画としてイベントを開催したいと、駿河台ボランティアセンターに相談したことでイベントの実施へと至りました。

主催学生の感想

文学部3年 川之辺 聡美

実施する前は医学部のない大学でこの講演会を行うことで、どんなリアクションが返ってくるのかとても不安だったが、学生のみならず多くの大学教職員の参加があった。参加者の感想の中に、難病指定を受けた身内のことについて触れているものがあり、今回の講演がその方々にとって印象に残るものとなったようで、改めて開くことができよかったと感じた。また MEG さんは年齢や職業関係なく色々な人に自分の病気を知ってほしいという願いを持っており、それを実現する手助けができたことが何より嬉しかった。

MEG さんは幼少期から車椅子生活を送っており、大学には1人で通っていたそうで、大学側も初めての車椅子ユーザーの受け入れだったようである。そのため非常に多くの苦労をされ、時には車椅子ユーザーを除け者にするような扱いや発言を受け、大学に通う車椅子の学生が同じ思いをしてほしくない、と大学での講演を強く希望していた。だからこそ、この講演会を機に、明治大学が誰でも心地よく過ごせる大学へと変わってほしいと思う。形だけのバリアフリーではなく、障がいをもった方の意見を取り入れた本当のバリアフリーを取り入れた大学になってほしいと思う。



▲「車いすトークライブ」の様子

竹とんぼ教室 和泉

子ども達に竹とんぼ教室を行う団体「どこ竹@竹とんぼ教室」が、杉並区内の公園、児童館やお祭りなどで開催する教室に、学生が先生役のボランティアとして参加しています。事前に作り方や注意事項を学ぶための講座を受け、子ども達との交流を通して外で遊ぶことや物づくりをする楽しさを伝える活動を行っています。

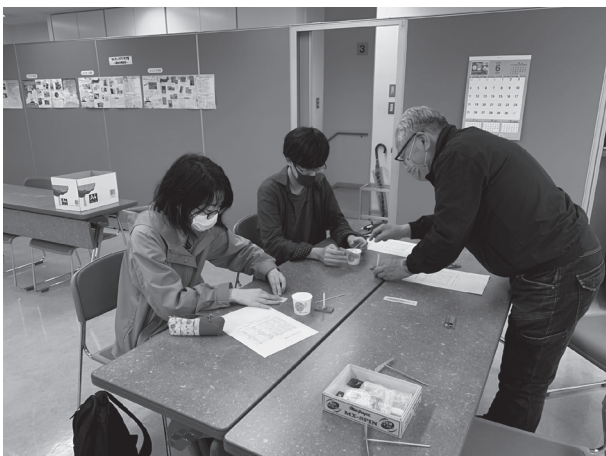
日時 2023年6月2日(金)～2024年3月28日(木)

参加 17名

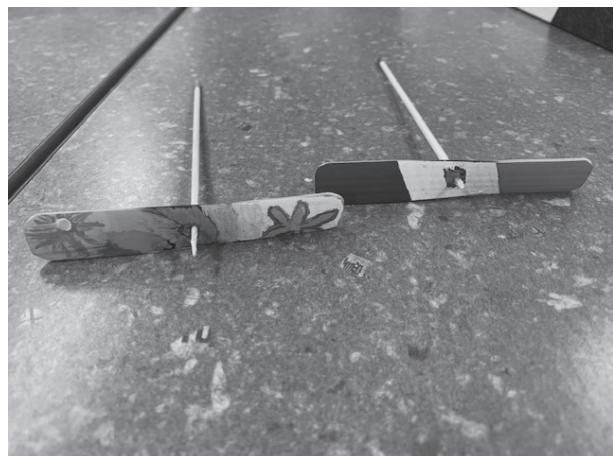
連携 どこ竹@竹とんぼ教室

〈竹とんぼづくり教室〉

| 日時 | 会場 | 参加 |
|---------------|--------------------|----|
| 2023年6月2日(金) | 杉並区環境活動推進センター（講習会） | 6名 |
| 2023年7月27日(木) | 杉並区環境活動推進センター | 1名 |
| 2023年7月30日(日) | 荻窪地域活動センター | 1名 |
| 2023年8月1日(火) | 杉並区環境活動推進センター | 1名 |
| 2023年8月26日(土) | 海の森公園（東京都 港湾局） | 1名 |
| 2023年9月10日(日) | 和泉学園 | 1名 |
| 2023年9月27日(水) | 上高井戸児童館 | 1名 |
| 2024年3月3日(日) | IMAGINUS（イマジナス） | 3名 |
| 2024年3月23日(土) | 海の森公園 | 1名 |
| 2024年3月28日(木) | 杉並区環境活動推進センター | 1名 |



▲竹とんぼ作りの説明を受けている学生



▲作成した竹とんぼ

まつばらデイキャンプ 和泉

和泉キャンパス近くの世田谷区立松原小学校で、子育て世代と地域の方々との交流や、地域の防災意識を高めることを目的としたデイキャンプが開催されており、公認ボランティアサークル「きずな International」の学生が参加しました。

地域の方や青少年委員、松原まちづくりセンター、消防署・消防団、松原地区社会福祉協議会など様々な方々と活動を共にし、地域との繋がりを感じる良い機会となりました。

日時 2023年10月14日(土) 13:30~17:00

場所 世田谷区立松原小学校

内容

- ・昔遊びコーナー実施補助
- ・運動あそびコーナー（ボッチャ）体験補助
- ・運動あそびコーナー（ハンド・アーチェリー）体験補助
- ・防災コーナー

参加 1名

主催 青少年松原地区委員会



▲ハンドアーチェリー体験の様子

参加者の声



M・S

まつばらデイキャンプに参加し、地域の方々との開催の喜びを共有するとともに、活動を通して貴重な経験をすることができました。私が行った活動内容は運動遊びや昔遊びの運営補助です。ハンドアーチェリーの担当になり、ルール説明や受付を行い、子ども達が安心安全に楽しめるように努めました。丁寧に説明することや子ども達と視線を合わせて会話することなど工夫をしながら活動を行いました。工夫しスムーズな進行をしたことで、より多くの子ども達に遊んでもらうことができました。子ども達が楽しい様子でハンドアーチェリーを行っていたため、とても微笑ましく感じました。子ども達は試行錯誤し、何回もレクリエーションを楽しんでいて、良い思い出になってくれると嬉しいです。また、どのコーナーでも子ども達が興味津々に楽しんでる姿がとても印象的でした。このまつばらデイキャンプでの活動を通して、多くの子ども達や地域の方々との交流をすることができました。この貴重な経験をもとにこれからもボランティア活動に励んでいきたいと考えています。

ホームカミングデーへの協力(駿河台ボランティアセンター直属学生ボランティア団体 Tree)

駿河台

日時 2023年10月22日(日) 10:30~17:00

場所 駿河台キャンパスグローバルフロント内教室

内容 「めいじろう縁日」の運営

参加 41名



感想

経営学部4年 吉郷 菜々子

約4年ぶりに全ての校友の方やそのご家族、一般の方が入れるようになり、昨年よりも多くの方が来場してくれました。ぬりえコーナーでは、未就学児から小学生くらいと幅広い子どもたちがいて、楽しんでくれる様子を目にすることができて良かったです。椅子を多く設置したことで保護者の方も休める場所になったと思います。射的は、銃が故障してしまったこともあり長蛇の列が出来てしまったので、

2024年度は効率良く行えるよう改善していきたいです。また、ビンゴ大会では2回あわせて300人以上の方が参加してくれとても大盛況でした。2023年度は座って行えるよう椅子を周囲に用意したため、小さいお子様も比較的参加しやすくなったと思います。全体を通し多くのお子様や保護者の方が来場してくれて、メンバーもとても良い経験になりました。

科学博士になろう① 生田

キャンパス近隣の児童館で開催している恒例の科学教室プログラムです。企画・準備から学生が参加しました。気楽に楽しく、かつ主体的に参加できるように、テーマ創りや準備の日時を固定せず、個人の都合のよい時間に自由に生田ボランティアセンターにきて行えるようにしました。



▲子どもによりそって活動

日時 A：テーマ創り 2023年5月8日(月)～5月25日(木) (全5回)
B：準備 2023年6月5日(月)～6月9日(金)
C：教室運営 2023年6月10日(土)

場所 A, B：生田ボランティアセンター
C：三田こども文化センター

内容 小学生むけ科学教室の開催

参加 21名 (A：9名 B：3名 C：9名)

体験 小学生13名 幼児2名 保護者2名

方式 学年の近い小学生1～3人に明大生1人が寄り添う小グループ方式

テーマ 見えない力で針金を回してみよう！

①電流・磁界の存在確認

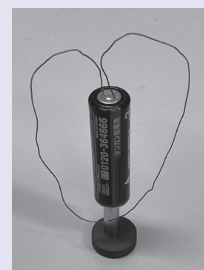
古い電池、新しい電池で豆電球の明るさが違うことを確認。
磁石と砂鉄を使い、磁界を観察。

②単極モーターの制作

電池と磁石を使い、針金を回す実験。

③磁力を使った車作り

磁石を取り付けた紙コップの車を磁石をつけた割りばしで反発力を利用して走らせる実験



▲単極モーター

子どもたちの感想



- じかってすごいと思った。
- じっけんってたのしいなと思いました。
- ぎゃくにまわすほうほうをさがすときが一番楽しかった。
- くるまがじ石でひっぱれるのがおもしろかったです。

理工学部4年 山口

参加者の声



〈この活動に参加した経緯〉

研究のヒントとなるきっかけを探しており、自分自身の経験を増やしたい！という思いからボランティアセンターへ足を運んだ。

〈活動の感想〉

磁力という目に見えない抽象的な力を子供たちに説明する際、どのように言語化すれば伝わるのか様子を見ながら考えることが難しい所だった。

「針金を電池の上で回す実験」の準備をする際、針金の状態(2,3重のコイルにする)など工夫次第で実験の精度の改善が図れることが確認でき、一つ学ぶことができた。

子ども達が自分で実験を成功させた時の笑顔を見た瞬間今回参加してよかったと強く実感した。子供たちが科学の面白さに少しでも実感できるきっかけになれば、よいなと強く思う。

〈活動前後の心境の変化〉

実験を終えて、子どもたちから逆に元気を貰った。そして、子供たちが将来的に活用できるものを研究したいと再認識できた。何かしら不自由を感じている人の手助けができるロボットの研究を行いたい。

テーマ創り+科学博士になろう② 生田

キャンパス近くの児童館で開催している恒例のプログラムです。

2023年度は実験のテーマ創りに理工学部の本多先生にも入っていただきました。

3ヶ月にわたり昼休みに生田ボランティアセンターに集まり、実験のテーマ創りから試作、改良を重ねて12月に科学教室を開催しました。

集まった学生は学部1年生から修士1年までと幅広く、学年や専攻を越えてそれぞれの考えやアイデアをとり入れながら不思議と驚きと発見のある実験を企画しました。

教室運営はテーマ創りに参加した学生で行いました。

日時

- A：テーマ創り 2023年10月19日(木)～2023年12月14日(木)
毎週木曜 昼休み 全7回
B：準備 2023年12月8日(金)～2023年12月15日(金)
C：教室運営 2023年12月16日(土)

場所

- A、B：生田ボランティアセンター
C：生田ボランティアセンター、三田こども文化センター

内容

小学生向け科学教室のテーマ創りと開催

参加

68名 (A：50名、B：12名、C：6名)

体験

子ども13名、保護者1名

方式

小学生と大学生の混じった2つのグループを作り、グループ毎に進度を調整し、子どもへのフォローもグループ内で協力して実験を行いました。

テーマ

かがやけ！きらめけ！クリスマス～光の不思議を体験しよう～

光に関する3つの原理を体験する実験を行いました。

- ①テグスの束の端から光を当てると反対側から光が出てくる（全反射）
- ②テグスの長さが変わると出てくる光の色が変わる（光の波長）
- ③光源の上に6色のカラーセロファンでグラデーションを作ったスライドを2枚重ねて、スライドを自由に動かし、見える色の変化を楽しむ（加法混色）

連携

三田こども文化センター

監修

本多 貴之（理工学部准教授）

子どもたちの感想



- セロハンをはるところが楽しかった
- 切った所が光る所やかざりつけがよかったけどやっぱ全部！！
- ひかりがきれいだった

参加学生の声



農学部1年 松本 麻代
今回のボランティアに参加しようと思ったきっかけは、教員を目指す上で子どもと関わる機会を作りたいと思ったからです。初めてのボランティアでしたが、約二ヶ月間の活動を通して成長できたと思えたことが二つありました。

一つ目は積極的に発言することです。初めは何をしたらよいかもわからないまま企画が進んでいて、内容を理解することに精一杯でした。そこで、集合時間の前にボランティアセンターの方と前回まで決まったことや、今日決めることについて確認をして、自分から話し合いに参加できるような準備を行いました。活動の日が近づくにつれて、自分の率直な感想や改善案を出せるようになりました。

二つ目は周りの様子を見て行動することです。ボランティア当日、私は四人の児童に説明をすることになりました。しかし、四人の中で作業の進度に差が生じてしまったため、隣のグループを担当してい

た先輩と連携をとりました。先輩は作業の早い児童同士と一緒に見てくださり、私はゆっくり作業している児童を担当しました。そしてどの児童も無事に作品を作り終えることができました。

私はボランティア活動を通して、子どもとの関わり方だけでなく企画でも様々な工夫をすることによりよいものが作れることを実感しました。今回の経験を生かして、今後の活動に生かしていきたいです。



▲テーマ創り



▲開催中の様子

かわさきサイエンスチャレンジ **生田**

川崎市最大の子ども向け科学の祭典「かわさきサイエンスチャレンジ」に企画・主催の実験ブースを出展しました。

2023年度の実験テーマは2022年度に続き「層になる液体」子どもが「楽しい」「ふしぎ」と感じられ、子ども自身が「手を動かして、たしかめられる」教室をめざしました。

事前に複数回の実験練習会を行い、学生同士で原理の理解を深めあったり、失敗しにくい実験手順のアイデアを出し合ったりしました。さらに、全員が他の学生の前で模擬実験教室を行ってみて説明の仕方、子どもへの問いかけなどを考えました。この時に子どもへの実験の手順書の必要性も感じ、手書きの温かみのある手順書を作成しました。

教室当日は講師だけでなく実験準備など、出展ブースのすべての運営を行いました。

- 日時**
- ①実験練習会 2023年6月16日(金)、6月27日(火)、6月30日(金)、7月7日(金)
 - ②リハーサル 2023年8月1日(火)
 - ③教室運営 2023年8月5日(土)、8月6日(日)

- 場所**
- ①②生田ボランティアセンター
 - ③ かながわサイエンスパーク

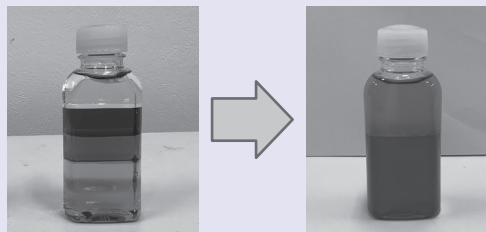
内容 小学生向け科学教室の開催

参加 32名
(①20名 ②5名 ③7名)

体験 小学生64人

方式 小学生2～3人に明大生1人が講師としてつく小グループ制。
1クール45分で小学生は8人。1日4クール。

テーマ 見えない力～層になる液体のふしぎ
水、グリセリン、エタノール、ごま油、ベビーオイルの5種類の液体が、比重の違いから5層に分かれ、極性の有無によって2層に分かれることをたしかめる



▲比重の違いで5層に / 極性の有無で2層に分かれる

参加者の声



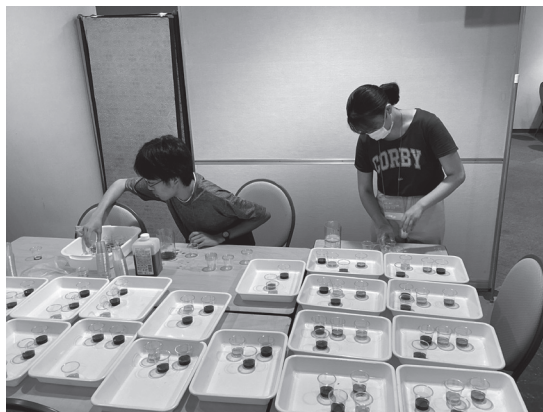
理工学部1年 西浦輝

このボランティアに参加したきっかけは、ボランティア募集のメールでした。僕はサークルに入っていないので、ちょうど何か大学生らしいことをやってみたくて思っていたので、参加してみました。

事前準備では、どうすれば小学生にわかるように実験を説明すればいいかを考えるのは少し大変でした。また、小学生自身に実験をしてもらおう予定だったので実験操作が難しくならないように工夫することも大変でした。

当日は4回実験をしたのですが、1回目と2回目の間の実験道具の転換に時間がかかって、2回目が始まるギリギリまでかかったときは焦りました。そのあとは、昼休みに3回目と4回目の準備をまとめてすることで焦らず始めることができました。また、実験は1回45分だったのですが、ただ実験をするだけだと45分よりも早く終わってしまうので、小学生たちに実験の予想をしてもらったりして、できるだけ45分に近づけるようにしました。楽しんでいる小学生たちを見ると、とても嬉しい気持ちになりました。

僕は、人と何かを達成するための話し合いをすることがあまりなくて、苦手だったのですが、事前準備でのメンバーとの話し合いがよい経験になりました。そして当日は、小学生を前にして実験の解説をするということを通して、人前で話す経験を積むことができました。



▲準備の様子

今回のボランティアに参加出来て自分の成長に繋がりました！

農学部1年 三谷清美

小さい子相手に、科学の原理を説明することが思った以上に大変でした。まず自分がちゃんと理解した上で、小さい子にも分かりやすい表現の仕方や、言葉遣いを考えて説明しました。

実験自体も小さい子たちには難しい作業もあった為、液体の入れ方のコツを説明したり、ラメを入れる紙を入れやすいように作ったりなどしました。

小さい子がみんな楽しんで帰ってくれて、中にはもっと深く実験について考えて、教えてくれる子もいて嬉しかったです！

本当にいい経験になりました、ありがとうございました！

実験の練習時、どこまで小学生に説明するかなど説明の仕方をみんなで話し合い決めることが大変でした。

農学部2年 城後菜緒

私は今回、小学1年生から小学6年生まで様々な小学生を担当しました。小学生低学年と高学年では理解度が違うので実験の説明する時の言葉の使い方や実験を行うペースをそれぞれ調節することが大変でした。全体的に早く終わってしまう傾向があり時間配分が難しかったです。実験中予想していなかった質問が来た時はとても焦りました。簡単な言葉を選びながら説明する練習をもっとしておくべきであったなと思いました。また、質問をした時に色々答えてくれる小学生がいる一方で何も答えてくれない小学生がいたので少しでも考えて答えてもらえるように選択肢を細かく設けて答えやすくすることを工夫しました。選択肢を作ることで答えてくれる小学生が増えて私が説明するだけでなく小学生も積極的に参加してくれるようになり良かったなと思います。また、小学生によっては層の数え方が独特でとても細かく層を数えて予想外の答えが返ってきたことがあり色々な感じ方があるんだなと思い面白かったです。

今回参加してくれた小学生がこの実験を通して少しでも科学の面白さを感じてもらい今後似たようなことを学んだ時に思い出してくれたら嬉しいです。



▲実験のコツをアドバイス

液体窒素実験 **生田**

液体窒素を用いた2種類の実験を生田キャンパス内で行うイベントです。2023年度は生明祭で開催しました。

テーブルごとの動線の切り分け、安全上の注意事項を掲示し視覚に訴えるなどの、コロナ禍以前の知見を継続しました。また、2022年度から導入したチーム制で実施しました。明大生ボランティアはチーム内で分担交代しながら、安全でスムーズな運営を行い、学生相互のコミュニケーションも図ることができました。

日時 2023年11月2日(金)・3日(土)

場所 生田キャンパス 屋外ブース

内容 「極低温・超伝導の世界を体験しよう」

3テーブルに分かれて実験を行う：

- A 極低温の実験…液体窒素で {バナナ、ゴムボール、酸素、二酸化炭素} を冷却する
- B 極低温の実験…液体窒素で {ゴム風船、ピンポン球、タオル、バラ、ほうれん草} を冷却する
- C 超伝導の実験…中央リニアにも使用される超伝導体を使い、磁気浮上やピン留め効果の、不思議な感触を体験する

参加 19名

体験 約250人 (一般来場者で多くはファミリー層)

方式 屋外ブースに、原理説明ポスターを掲示する。明大生ボランティアは3つのチームに分かれ、チームごとに各テーブルの実験を運営する。来場者にデモ実験を見せたり、安全な範囲で来場者が実験を体験できるようサポートする。各チームは交代してすべてのテーブルの実験ボランティアを経験する。

発案 安井 幸夫 (理工学部教授)

引率 我田 元 (理工学部准教授)

待機 河野 菜摘子 (農学部准教授)

参加者の声



私が参加しようと思った理由は、科学実験を通して子どもたちと交流できるという点に興味を持ったからです。私自身、幼い頃に科学実験教室に何度か参加したことがあり、その際に見た実験はとても印象的でした。同じような経験を子どもたちにボランティアとして関わってみたいと思い、参加しました。

参加する前は、理系ではない私が実験結果の理由を上手く説明できるのだろうか、という不安がありました。そして、実際のボランティアの中でも、理由を聞かれて言葉に詰まってしまう場面が多くありました。しかし、一緒に参加した理系の学生や先生がフォローしてくれたおかげで、乗り切ることが出来ました。

今回一番心に残っていることは、実験を行った際の子どもたちの表情や様子です。普段目に見ている花やボール、ほうれん草といったものが、液体窒素によって全く別のもののように変化している様子を、食い入るように見る子どもたちの目は、とてもきらきらと輝いて見えました。また、実験を見て「すごかった」で終わらせるのではなく、「なんでそうなるの?」と聞いてくれる子も多く、理由も知りたいと思う好奇心の強さも感じられました。このように、新しい発見をした際の子どもたちの様子を間近で見ることが出来、このボランティアに参加できてよかったと心から思いました。

法学部2年 末田 詩織

商学部1年 二宮 颯

実際に活動をする前に、一緒に活動するみなさんで実験の練習をし、どのようにすれば効率よくたくさんの方ができるかや安全なのかを考えました。

活動中は、椅子の上に子どもが立つため、実験に夢中で倒れてしまっても支えられるように常に意識していました。

また、自分は今年で18歳ですが子どもと同じ目線で接することで、子どもたちとコミュニケーションをとる事ができました。これを意識するだけでこれまでなかなかコミュニケーションを取ってくれなかった子どもも、よく話してくれるようになると学びました。

ボランティア活動をしている人は全員初対面で最初はしっかりコミュニケーションが取れるか不安でしたが、少しずつ会話も増え良い連携がとれました。何より良かったのは子どもたちに怪我なく終えられたことです。保護者の方にも参加してもらうことによって子どもと一緒に楽しくて良い思い出になったと思いました。私は商学部で理系の知識はなかったのですが、普段できないような体験ができ、とても新鮮な気持ちで活動できました。

農学部4年 太田 采奈

今回私は、生明祭で開催された科学実験のボランティアに参加させていただきました。そのきっかけは、久しぶりに子どもと関わるボランティア活動がしたいと思ったからです。科学実験という理系キャンパスならではの企画であるとともに、大学構内で子どもたちと関わるができるという点にとっても魅力を感じ、参加させていただきました。

主な企画内容は、液体窒素を用いた科学実験のブースで子どもたちに実際に実験をしてもらい、液体窒素の不思議な性質を体感してもらうというものでした。実際にいらした方の大半は子どもたちで、液体窒素に漬けたバラやボールが粉々になってしまう様子を見て驚いたり楽しそうにしている姿がとても印象的でした。また、意外にも、大人の方にたくさん参加していただき、実験の原理や仕組みについて興味を持っていただけました。

普段は理科という学問に対して同年代の学生としか話をする事ができないため、このような幅広い年代の方と交流できる生明祭という場で、どんな風に説明をしたらより理科の面白さを伝えることができるか、などを考えることがとても面白かったです。沢山の方に理科の面白さや奥深さを実感してもらえたのではないかと感じています。また、私自身が教員免許を取得するということもあり、理科への関心・好奇心を引き出すようなアプローチを沢山学ぶことができたと思います。このボランティアに参加することができて本当に良かったです。



▲冷やされた風船が縮む様子



▲超伝導の実験

小学校でのプログラミング授業のサポート **生田**

理工学部と川崎市立三田小学校の連携事業としてプログラミング学習の出前授業が行われました。三田小学校の5年生に、理工学部情報科学科の井口幸洋教授がScratchを使ったアニメーションの動かし方や簡単なゲームの作り方を教え、理工学部の学生7名、農学部の学生1名、理工学研究科の学生1名がボランティアで授業のサポートをしました。

当日「プログラミングってなに?」と話しながら登校する児童の様子から、この授業に対する関心の高さを窺い知ることができました。児童達は、自分のタブレットの中のスプライト（キャラクター）が動いたり鳴いたりすると、歓声をあげたり笑ったりして好奇心いっぱいな様子で取り組んでいました。一方で、Scratchに初めて触れる児童も多く、複数のスプライトを動かすためにそれぞれにコードを書くという作業に戸惑ったり、ゲームを作る時に使う変数を作ることが難しい児童もいました。

学生達は、途中でつまずいた児童たちに寄り添い、丁寧にフォローをしていました。また、児童がうっかりスプライトごとコードを消してしまっても、学生が瞬間に元通りに復活させて、頼りになる存在となっていました。

- 日時**
- ①勉強会 2023年8月1日(火)
 - ②授業 2023年9月7日(木)
 - ③ふりかえり会 2023年11月24日(金)

- 場所**
- ①生田キャンパス 教室
 - ②川崎市立三田小学校
 - ③生田キャンパス 教室

内容 小学校の総合的な学習の時間「プログラミング学習」授業にて児童のサポートを行う。

参加 27名 (①10名 ②9名 ③8名)

体験 小学生 約100名

引率 井口 幸洋 (理工学部教授)

参加者の声



理工学部1年 S.T.

僕は小5のときにScratchを始め、そこからプログラミングにハマって、現在は理工学部情報科学科に在学しています。その経験が、今回応募させて頂いたきっかけです。100分でゲームを作るまでのプログラミングを身につけるので、ハイレベルでハイペースに教える必要があります。そのため、事前資料を読んだ段階では、ついていけなくて退屈する子が多く出るのではないかと不安でした。しかし、ついていくのが大変でも、みんな楽しそうにしていたと思います。自分で組んだプログラムが動くという達成感を味わって貰えたと思います。そういえば、自分も同じ達成感を味わえたから、今の情報科学科での勉強があるのだなとも強く実感しました。校長先生が仰っていた「子どもたちに様々な経験をさせ、将来のきっかけの一つでも多く作って上げたい」という目標は達成できたと思います。これがきっかけとなり、情報系に進む子が出てくるといいなと思いました。この4年“しか”ない大学生活、とても貴重な体験をさせて頂きました！さらには、自分の原点も思い出すことができ、これからより一層勉学に打ち込んでいきたいとも思えました！井口先生や三田小学校の皆さんをはじめ、今回携わってくださった方々、本当にありがとうございました！

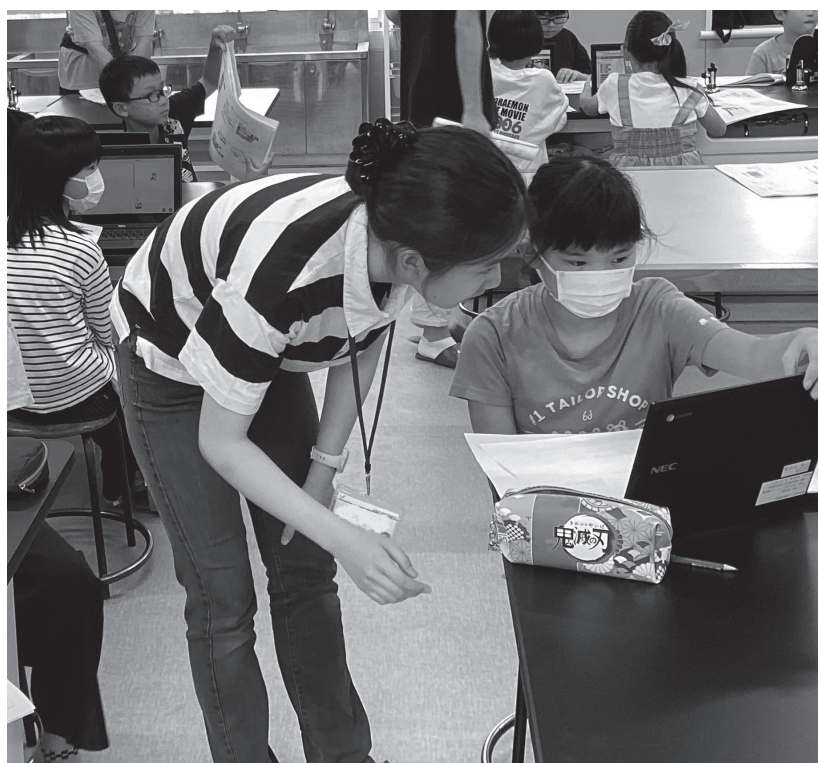
理工学部2年 松木 裕太郎

本ボランティアに参加させて頂いた感想として、1つ目に子供もだけでなくTAをさせて頂いた私自身もボランティアを通じて大きな学びを得られた事、2つ目に自身の在り方について考える良い機会になった事があります。

初めに、学びが得られた事は、子供達と共に私自身も scratch やプログラミングについての理解を深める事が出来た点です。プログラミング授業のTAを行った際に、授業資料を見て作ったゲームを子供から「残機制にしたい・たまに高得点なフルーツが出てくるようにしたい」等の、ゲームをもっと改良したいという相談がありました。それに対して、TAである私達が「じゃあこうしてみるのはいかがでしょうか？」と、子供達の様々な発想を実現するために思考する過程が、私自身の学びともなりました。更に、子供達と実際に関わる事で「どのようにすれば子供達が興味を持ってくれるのだろうか？楽しんでもらえるか？」ということを中心に考えながら、今までの教職科目で得た知識を実践・活用する事が出来た事や、逆に教職科目だけでは知れなかった教育現場の現状を知る事も出来ました。

次に、自身の在り方について考える良い機会になった事は、1つ目のボランティア活動が教職課程に活かした事と関連していて、本ボランティアに参加した事で自身の教育観や人間観が大きく変化した事です。

そして、最後に本ボランティアを通じて一番印象に残った事は、やはり子供達が楽しそうにしている姿や、純粋な笑顔でした。これは正しく、ボランティアに参加する事でしか得られない貴重な体験だと思います。



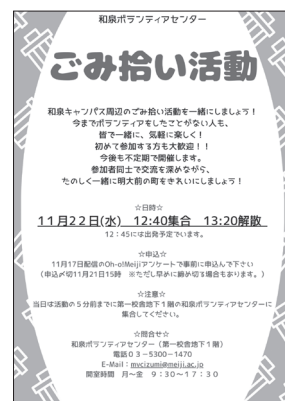
▲授業中の様子

ごみ拾い活動 和泉

明大生の環境問題への啓発活動を主な目的として、昼休みに和泉キャンパス周辺の清掃活動をしました。清掃活動だけでなく新入生同士や先輩とのコミュニケーションの場をつくる良い機会になりました。

また11月には、通年を通しごみ拾い活動をしている公認ボランティアサークル「ぱれっと」との合同開催として、交流を楽しみながら活動をしました。

本活動を通して地域社会の一員としての自覚を持ち、身近なことから社会貢献できると知る機会になりました。



▲募集チラシ

- 日時**
 - ① 2023年 5月25日(木) 昼休み
 - ② 2023年 6月 8日(木) 昼休み
 - ③ 2023年 6月26日(月) 昼休み
 - ④ 2023年11月22日(水) 昼休み
- 場所** 和泉キャンパス周辺
- 内容** 初対面の人2人以上と話すことをミッションのひとつにして、ごみ拾いを行う。
- 参加**
 - ① 14名
 - ② 4名
 - ③ 4名
 - ④ 4名+ボランティアサークル「ぱれっと」



▲▼ごみ拾い活動の様子



清掃活動 中野

中野キャンパスでは中野キャンパスおよび中野駅周辺の清掃活動を定期的に行っています。

秋学期には国際日本学部の3名の留学生が、授業内でのプロジェクトワークで清掃活動を取り上げてくれたため、インタビューに応じました。担当の先生から、留学生が日常生活の中で行うことができるごみ対策の事例発表を行った際、クラスの学生らも、自分のキャンパスで行われている活動であるため、非常に関心を持っていただくと報告をいただきました。

日時 春学期 2023年4月25日(火)・5月17日(水) 30日(火)・6月9日(金)
秋学期 2023年9月29日(金)・10月11日(水) 26日(木)・11月9日(木)
20日(月)・12月6日(水)

場所 中野キャンパス周辺・中野駅前など

参加 63名

参加学生の声



政治経済学部4年

秋学期を通し、ボランティア活動に5度参加した。5度のボランティア活動を通じて得たものは、仮に対価が得られなくても、社会に貢献したいという気持ちだ。

ボランティア活動に参加する前の自分は、何か行動を起こすにはそれ相応の対価が欲しいという考えだった。しかし、ボランティア活動を通じて、街のごみを減らしていくと大変すがすがしい気持ちになれること、誰も見ていなくても善い行いをするのは、誇らしい気持ちになることができることに気が付いた。それ以来、ボランティア活動が大好きになり、無償で行動を起こすようになった。また、ボランティア活動は街の清潔さに貢献するだけでなく、自らの心身にも好影響を与えてくれる。普段の生活でいろいろなストレスが溜まるが、ボランティア活動をすることで誇らしい気持ちになり、心をきれいにしてくれる。このように、人を成長させ、街と人をきれいにするボランティアは本当に素晴らしい活動だ。これを読んだ方もぜひ参加してみてください。

情報コミュニケーション学部4年 高田 駿介

「一回くらいボランティアを経験しておこう」と軽い気持ちで参加した清掃ボランティアでしたが、まさか秋学期のほぼ全ての回に参加するほど継続するとは思っていませんでした。参加するまでは見ていただけだったボランティア活動には、地域への貢献や達成感など、実際にやってみなければ分からない面白さがあり、毎回驚きや楽しさに満ちた活動をすることができました。最初に参加した回にたまたま4年生が多かったり、その後の参加者もみんないい人ばかりだったり、毎回いい天気楽しく清掃ができたりと、今にして思えば奇跡のような偶然が重なっていたなと思います。そしてそのおかげで卒業を待つだけだった秋学期に充実した貴重な経験ができました。これからも、機会があればボランティア活動に参加しようと思います。

経営学部4年 佐藤 優羽

最初はこのボランティアに一人で参加したのですが、複数回参加したことで新たな人との出会いが増え、一緒にボランティアに参加してくれる仲間が出来たのが個人的に活動が続けて良かった事の一つだと感じています。また、この活動を複数回行っていると周囲の方々の温かい声を聞ける機会が増えます。そういった声のおかげで心が満たされる部分もあり、この活動が続ける原動力になります。この活動を通じて、当たり前な事を当たり前に行う事の重要性を感じました。そして、継続して活動に参加したことで多少なりとも自信が付きまして。この活動と縁があった事に感謝します。

国際日本学部4年 松澤 涼

清掃活動をする度に感じるのですが、中野は割と綺麗な街で、目立ったごみはそこまで多く落ちていません。それにも関わらず、参加したメンバーは皆細かいごみを積極的に拾い集めており、その姿を

見ていて感銘を受けました。既にある程度綺麗なのにそこからさらにその度合いを高めていこうという姿勢はとても素晴らしいと思います。

秋学期はメンバーの多くが4年生で最後の清掃活動ということもあり、最終日はいつも以上の盛り上がりを見せていました。おそらく一緒に話す最後の機会だったので楽しい時間を過ごそうという意識が全員にあったのだらうと思います。社会人を経験している人とも話し、これから社会に出る上でのあれこれも教えていただくなど、本当に良い時間だったと感じます。

私の大学における清掃活動自体は終了しますが、これからも清掃活動兼友人作りの場として中野ボランティアセンターが機能し続けて私と同じような思いをしてくれる人が増えてくれたらと思います。



▲中野駅前の清掃活動の様子

あなたの環境は
大丈夫ですか？
: 小さな動きから始まる

環境チーム
ジョン ゼハ
キム キリム
チェ ジウォン

活動が目指している形がありますか？

ボランティア活動が定着し、参加者数が増え、より広い範囲の区域を掃除し、新しい場所への探求ができる環境を作りたい。

また、外国人の留学生が多い中野キャンパスの特性と生かし、色々な国籍の学生の交流の場ができればと思います。

▲「留学生のための学術日本語Ⅲ」授業内での学生発表資料

千代田区合同パトロール 駿河台

千代田区役所の地域振興部（安全生活課安全生活係）よりお誘いがあり、「千代田区合同パトロール」に明大生が参加しました。当日は千代田区長、万世橋警察署長、神田警察署職員、千代田区役所職員のほか地域住民の方も参加され、交流を楽しみながら取り組む姿がありました。

日時 2023年6月20日(火) (春学期開催) /
11月20日(月)、12月20日(水) (秋学期開催)
いずれも13:10~14:15頃まで

内容 道路のごみ拾い、生活環境条例の啓発活動など

場所 JR 御茶ノ水駅 聖橋交差点

参加

| 日時 | 参加者数 |
|----------------|--|
| 2023年6月20日(火) | 学生12名、職員2名、千代田区長、万世橋警察署長、神田警察署職員、千代田区役所職員、駿河台西町会 等 |
| 2023年11月20日(月) | 学生9名、職員1名、神田警察署職員、千代田区役所職員、駿河台西町会 等 |
| 2023年12月20日(水) | 学生9名、職員2名、神田警察署職員、千代田区役所職員、駿河台西町会 等 |

参加学生の声



- 初めてのボランティア参加でしたが想像以上に楽しかったです。区長や警察署長、地域の方の千代田区美化への思いも聞くことができ、新たな気づきも得られました。とても有意義な時間が過ごせたのでよかったです。
- 初めて参加したが、街には意外とポイ捨てされたタバコやペットボトルが落ちており、今後もこのような清掃活動が定期的に必要だと感じた。
- 今回初めて参加しましたが、参加者同士の交流もありとても楽しかったです。普段は意識しないのですが、意外と道の側溝などに多くごみが落ちていることに気づきました。また地域の方から声をかけて頂く場面も多く、嬉しかったです。また参加したいです。

- 自分の大学だけでなく、他大学や様々な年代の方々と協力して地域の清掃とパトロールをすることができ、交流を通じてボランティア活動のやりがいを感じることができました。また機会があれば是非参加させていただきたいと思います。

【当日の様子】



▲合同パトロールの様子

3 大学連携オンライン講座 **駿河 和泉 生田 中野** 「琵琶湖の環境保全 ～琵琶湖ツーリズム!大学生で考える環境ボランティアの未来2023～」(関西・法政・明治 3 大学連携事業)

2022年度に引き続き、2023年度も Zoom と対面のハイブリットで開催され、当大学からも学生と職員が参加しました。

- 日時**▶ 2023年 9月14日(木) 14:30～16:00
- 方法**▶ Zoom
- 内容**▶ 1. 琵琶湖の環境保全についての講義 →特に侵略的外来生物への対策について
2. 駆除活動について
3. 小グループでの意見交換会
- 参加**▶ 明大参加者 (学生 5 名、職員 1 名)
- 目的**▶ 専門家の講義により、琵琶湖の環境保全、特定外来生物、および、駆除活動の概要・心構えなどについて学ぶとともに、3 大学学生同士の交流の場を持つことにより、今後の 3 大学連携活動の一助とする。
- 講師**▶ 滋賀県立琵琶湖博物館 特別研究員 / 滋賀県琵琶湖環境部 自然環境保全課 副主幹 中井克樹氏
- 主催**▶ 関西大学ボランティアセンター

感想



【明治大学参加者 事後アンケートから抜粋】

- 琵琶湖でのナガエツルノゲイトウ (侵略的外来種) などの対策でできた課題や手法を知る事ができて良かったです。

社会問題

全商品リサイクル活動（公認ボランティアサークル MIFO）

難民問題を啓発し国際問題への意識を高めることをねらいとし、明治大学の学生、教職員、また近隣の住民から不要になった衣類などを回収し、ユニクロや NPO 団体を通じ難民キャンプに送る活動を行っています。

日時 2023年6月19日(月)～23日(金)

場所 中野キャンパス 1階アトリウム

参加 15名

回収 約176着

センターの役割 広報

参加学生の声



文学部3年
• たくさん服回収できてよかったがユニクロ・GUの服が少ないから、もっと強調して宣伝したほうが良いかもしれない。

• フリマを早めにやりたい。制服を持ってきてくれた子がいた。どうする？

国際日本学部2年

• 学生への広報に力を入れる。留学生と英語の先生が多いので英語でも宣伝する！その場で服を買いたいと言っていた生徒もいたので大学でフリマもありかもしれない。お昼しか引き取れないとなるとその時まで古着を持ってないといけなから持ってくる人は面倒に感じるかも。回収ボックスが設置できればいいけれど場所や許可なども問題がありそう。回収した服を他キャンパスまで持っていく負担がある。どこかに置けないか。

国際日本学部1年

• 思っていたよりも集まった。職員の方が持ってきてくださる割合が高かった。もっと学生に協力してもらいたい！

法学部3年 宮本連

• 5日間の振り返り…2日目以降から徐々に服を持ってきてくれる人が増えていった。教職員の方々や、生徒の保護者の方が服を持ってきてくださったことは良かったが、学生から服を回収することが少なかった印象。

• 良かった点…今回の参加メンバーのほとんどが国際日本学部の学生だった。普段中野で活動する機会は多くないので、国際日本学部の学生同士交流できたのはとても良かった。基本衣類はNGなしでなんでも回収したのが良かった。スカーフ、マフラーなどもあった。

• 改善点…服を持ってきてくれた人に対して、何かしてあげられるといいかなと思った。特に外部の方は、わざわざ大学まで持ってきてもらっているのに、「ありがとうございました。」だけでは、失礼な気がする。また、学生も授業もあり、荷物も多い中で服を持ってくるのは大変なので、見返りのようなものがあれば積極的に協力してくれるかなと思った。



▲中野キャンパスアトリウムでの衣類リサイクル活動の様子

全商品リサイクル活動（公認ボランティアサークル MIFO）

「全商品リサイクル」は、明治大学の学生、教職員、また近隣の住民から不要になった衣類などを回収し、ユニクロやNPO 団体を通じ難民キャンプに送る、公認サークル Meiji International Friendship Organization (MIFO) が行っている活動です。また、その活動を通して、学生が主体となって難民の方への実質的な支援を行うと同時に、より多くの大学生、教職員等に難民問題を啓発し国際問題への意識を高めることをねらいとしています。

日時 ①2023年6月19日(月)～2023年6月23日(金) 12:00～13:30
 ②2023年12月11日(月)～2023年12月15日(金) 12:00～13:30
 ※12月の活動は公認ボランティアサークル SHIP が合同参加。

場所 和泉キャンパス第一校舎前

参加 ①23名 ②11名

回収 ①203着 ②104着

センターの役割 作業場所及び保管場所の提供（和泉）



▲回収の様子（2023年6月）



▲回収の様子（2023年12月）



政治経済学部2年 藤吉 美空
 「全商品リサイクル」は、MIFOの国際支援活動や環境保全活動の一環として行なわれる活動です。学生や教職員より破棄予定の衣類などを回収し、企業へ寄付することで、衣類ロスの削減に貢献すると共に、原材料をリサイクル利用することで、環境への負荷低減を目指しています。更に、企業へ寄付しない一部の衣類は、秋学期開催の「フリーマーケット」活動にて販売を行う予定であり、売上金は全て難民支援団体へ寄付し、難民が抱える貧困や飢餓等の諸問題の軽減を目指します。2023年度の活動では、株式会社ファーストリテイリングに協賛いただき、皆様よりお預かりした計203着の衣服のうち、39着のユニクロ・GUブランドの衣類を寄付致しました。

ファーストリテイリングにて回収した衣類は、素材への再生や燃料、難民寄付衣類などに活用されます。活動期間は一週間と決して長くありませんでしたが、私達の「全商品リサイクル」活動を通して、MIFOメンバーのみならず、学生や教職員の皆様にも、身近にある「衣類」から、環境や難民といった社会問題に目を向け、考えていただく機会を提供できたら幸いです。さらに世界規模で取り組んでいるSDGsの「つくる責任・つかう責任」にも貢献できたと感じていただけたら嬉しく思います。

文学部2年 井上 晴
 MIFOでは一年に二度、一週間にわたって古着回収を行う「全商品リサイクル」を行っています。今回十二月に行った活動では、ユニクロ・GUの衣類が24着、その他80着の104着が集まりました。全商品リサイクルで回収したユニクロ・GUの衣類は株式会社ファーストリテイリングの協力により難民支援に活用され、その他の衣類はMIFOがフリーマーケットを行うことで売上金を難民支援団体に寄付します。先輩方の代から引き継がれ、続いているこの活動ですが、教職員の方からのご協力が多い反面、学生からの協力が少ないという課題があります。学内全ての方々のご協力あってこそ成り立つ企画であるために、この課題は深刻で、いまだ解決への道は開けていません。

今回、新しい試みとして、同じく明治大学の公認サークルである SHIP にも協力を依頼し、当日の声掛けなどを共同で行いました。一週間を通し、MIFOとSHIPが交流を行ったことで、活動に活気が生まれ、メンバーにも良い刺激となったのではないかと考えています。

また、今回は今まで参加してきた他団体主催のフリーマーケットだけでなく、MIFO主導として行うフ

また、今回は今まで参加してきた他団体主催のフリーマーケットだけでなく、MIFO主導として行うフ

また、今回は今まで参加してきた他団体主催のフリーマーケットだけでなく、MIFO主導として行うフ

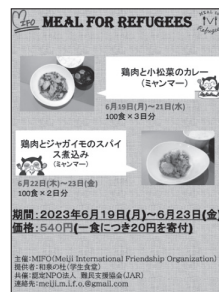
リーマーケットを計画しています。八王子市の方が場所を提供して下さるという事で、現在計画段階ではありますが企画に向けて準備を整えています。

継続して行われてきた活動を引き継ぐことは簡単なことですが、やらなければならないという義務感による活動では、もはやボランティアとは言えないのではないかと考えています。新たな一歩を模索することが目の前の課題に取り組むことにつながると信じて、MIFOとして成長していきたいと思っています。

Meal for Refugees (公認ボランティアサークル MIFO)

「Meal for Refugees (M4R)」は、認定NPO法人難民支援協会(以下JAR)が、日本で暮らす難民と共に作った料理レシピ本『海を渡った故郷の味～Flavors Without Borders』から生まれた社会貢献プロジェクトです。

公認サークルMIFO (Meiji International Friendship Organization)が、食堂の協力の下、身近な「食」を通じて、より多くの大学生・教職員等に難民問題を身近に感じてもらい、関心・理解を深めてもらうことを目的に実施しています。売り上げの一部はJARを通して、日本で暮らす難民の方に寄付されます。



▲ポスター

- 日時**
- ①2023年6月19日(月)～6月23日(金) 昼休み
 - ②2023年12月4日(月)～12月8日(金) 昼休み

場所 和泉キャンパス和泉の杜 (学生食堂)

- 内容**
- ・学食にて難民の故郷の味を再現したメニューを導入する
 - ・難民問題に関する啓発(学食へのポスターの設置、難民に関する勉強会の開催など)

センターの役割 活動場所や備品等の提供、広報活動の支援、全般にわたる相談 (和泉)

| 販売メニュー | 販売期間 | 価格 | 販売数 |
|-------------------------------------|-----------------------------|------|------|
| 鶏肉と小松菜のカレー | 2023年6月19日(月)・20日(火)・21日(水) | 540円 | 347食 |
| 鶏肉とジャガイモのスパイス煮込み | 2023年6月22日(木)・23日(金) | 540円 | 263食 |
| 鶏肉と野菜のスパイシー炒め | 2023年12月4日(月)・5日(火)・6日(水) | 540円 | 247食 |
| 豚肉のガラムマサラ炒め | 2023年12月7日(木)・8日(金) | 540円 | 165食 |
| 寄付金額：①12,200円 ②8,240円 (一食につき20円を寄付) | | | |



▲食堂での呼びかけの様子



▲鶏肉と野菜のスパイシー炒め



▲食堂との打ち合わせの様子

企画学生の声



私達は難民という言葉を知ってはいるものの、生活の中で難民の問題を考える機会は多くは無いと思います。M4Rは私達の生活に身近な食を通じて難民の方々に対する理解を深めることができ、さらに私達がM4Rのメニューを購入することで難民の方々へ寄付をし、それらを通じて難民の方々を支援することが出来るという素敵な活動です。難民と聞くと難しく考えてしまうかもしれませんが、食などの身近なテーマから難民の方々に対する興味や理解を深めて行くことが大切であると考えています。この活動を知ってもらうことで少しでも難民の方々の問題に興味を持ったり、考えたりしていただけたら幸いです。

法学部2年 砥綿 真菜

この活動は例年MIFOで年2回行っていた大切な活動です。新型コロナウイルスの感染拡大により活動自体が途切れていた時期もありましたが、今回は2022年の秋に引き続き開催することが出来ました。うまく行かないこともありましたが、協力して下さったたくさんの方々のおかげで、無事活動を終えることが出来ました。今後もこの活動を続け、より多くの方に難民問題を知っていただくために、今回の反省点を生かしつつ努力してまいりますので、今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。

TABLE FOR TWO (公認ボランティアサークルぱれっと)

TABLE FOR TWO (略称：TFT) は、開発途上国の子供達と先進国の私たちが、食事を分かち合い、食の不均衡を解消することを目標とした企画です。食堂事業者の方にご協力頂きながら、自分達で考案したバランスの良いメニューを学生食堂で提供しています。1食につき20円(開発途上国の給食1食分)をTABLE FOR TWO internationalに寄付し、栄養問題の解決に向けての支援をします。世界の食の不均衡や、「食と健康」、世界の食糧事情について考えるきっかけになることを目指して活動しています。



オススメポイント
あっさり食べれる
肉も野菜もどれちゃ
低カロリーの一品

大豆ミートの
アミグラスハンバーグ
12/11・12/12
発売! ¥540

12/18・12/14・12/15
発売! ¥540

オススメポイント
大豆ミートを感じさせない
美味しナ!
罪悪感の少ないこの料理を
是非食べてみてください!

Table For Two
TABLE FOR TWOのヘルシーメニューを
購入すると、代金のうち開発途上
国の給食1食分の20円が寄付され、
飢えに苦しむ子どもに給食をプレ
ゼントできます。

▲写真チラシ

日時 ①2023年6月12日(月)～6月16日(金) 昼休み
②2023年12月11日(月)～12月15日(金) 昼休み

場所 和泉キャンパス和泉の杜(学生食堂)

センターの役割 活動場所や備品等の提供、広報活動の支援、全般にわたる相談(和泉)

| メニュー | 販売期間 | 価格 | 販売数 |
|------------------|-------------------------|------|------|
| ガパオライス | 6月12日(月)・13日(火) | 540円 | 248食 |
| よだれ鶏 | 6月14日(水)・15日(木)・16日(金) | 540円 | 378食 |
| 大豆ミートのデミグラスハンバーグ | 12月11日(月)・12日(火) | 540円 | 218食 |
| 豚しゃぶ定食 | 12月13日(水)・14日(木)・15日(金) | 540円 | 210食 |

寄付金額：① 12,520円 ② 8,560円 (一食につき20円を寄付)



▲よだれ鶏



▲チラシ配り



感想



商学部2年 宮西 ようか
私がTABLE FOR TWOの活動をして感じたことは、ボランティア活動というと漠然と感じているだけで、実は参加してみたいと考えている人は多くいるということです。実際にTABLE FOR TWOで広報活動をしたとき、TABLE FOR TWOの説明をすると「ご飯を食べるだけで募金になるなら食べてみよう」と言ってくれた方がたくさんいました。そこで、ボランティアがより身近に感じられるこの活動をもっと広げていきたいと思いました。

また、この活動を実施するにあたっての準備では、TABLE FOR TWOのコンセプトである健康的な食生活を推奨するメニューを考える必要がありました。野菜を多く取り入れようとするとうれしくも高くなってしまったり、健康的な食材を使うには仕入れに時間がかかったりと理想と現実との差を埋めるにはどうしたらいいか悩まされました。しかし、学生食堂の方々が調整してくださり、なんとか2つのメニューを選ぶことが出来ました。TABLE FOR TWOのメニューを食べた方から良い反応ももらえて、この活動に参加して良かったと感じました。次回のTABLE FOR TWOのメニューに使用してみたい食材もあるので、計画的に自ら動き、活動をよりよくしていきたいと考えています。

2023年度は2022年度に続きコロナ自粛後2回目のTable For Two活動でした。Table For Two（以下TFT）とは先進国と開発途上国の両方の国に住む人の健康に役に立つ活動です。

2023年度は、前年度の反省点を活かし、スケジュール通りに進むように仲間と協力して準備を行いました。2023年度との違いは、和泉キャンパスの学食がリニューアルし、1階から3階までの全てのフロアで通常の学食が提供されていることから、TFTメニューの提供数が減少する可能性があるかと予想していました。しかし、1、2年生を中心に広報活動を効果的に行ったことで、実施したすべての日程でTFTメニューは完売しました。また、提供したメニューについても、多くの人から「美味しかった」と言っただけで嬉しく思っています。そして、学生食堂をはじめとする多くの方の協力でこのTFT活動が成り立っていることを改めて実感しました。

ボランティア活動というと大変なイメージがあるかもしれませんが、このTFT活動は「食べる」事が活動への参加になるので、非常に参加しやすいものになっています。私達はこの活動に1人でも多くの人に参加してくれるように、これからも活動を続けていきます。

社会福祉

献血活動への呼びかけ（公認ボランティアサークル 明治大学学生赤十字奉仕団・クローバー）

学生赤十字奉仕団クローバーの学生が献血への参加周知活動を行いました。

日時 2023年5月9日(火) 10:30~13:30 15:00~17:10
2023年11月30日(木) 10:20~11:10 12:30~16:00

場所 中野キャンパス1階アトリウム

参加 3名

献血者 81名（5月…26名 11月…55名）

センターの役割 広報（中野）



▲献血活動の様子

子ども

授業テラス託児ボランティア (Tree)

日時 2023年8月11日(金), 12日(土) 9:30~16:30

場所 六本木ランドタワー内

内容 子どもの預かり(2歳から小学生ぐらいまで)遊びや簡単な工作を行う

参加 11日(金)11名 12日(土)10名



感想 普段関わっていない年齢層の子どもと関わる中で最初は慣れないことも多かったですが、徐々に慣れていきました。また、保護者の方などから感謝の言葉をいただいたときや子どもの楽しそうな姿を見られたときには、本当にやりがいを感じることができました。

また、普段 Tree の活動に参加できていないメンバーも夏季休業期間中や子どもが好きという理由などから参加をしており、普段話さないメンバーともコミュニケーションを取ることができたことはとても嬉しかったです。今後もボランティアを通じて多くの人との関わりを大切にしたいと思います。

総合数理学部3年 矢部直哉



▲活動の様子

環境

善福寺公園一斉清掃 (Tree)

日時 春学期 2023年5月28日(日) 14:00~17:00

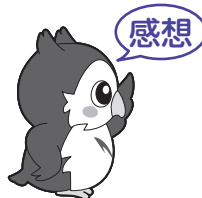
秋学期 2023年12月2日(土)、3日(日) 14:00~17:00

場所 善福寺公園

内容 清掃活動(落ち葉収集・排水溝掃除)

参加 春学期 68名

秋学期 12月2日(土)24名 3日(日)33名



感想 Tree への新規加入3・4年生を含め、昨年の倍以上の人数で公園清掃を行った。各グループ内でコミュニケーションを取りながら行うことで、公園の道端・道路側のグループはたくさんの落ち葉をスムーズに収集・回収をし、排水溝担当のグループは泥と葛藤しながら側溝を綺麗にすることができた。初めて活動に参加するメンバーも多く、やや緊張が見受けられたが、活動を通して徐々に笑顔が見え始め、和気あいあいと学年学部関係なしに協力し合い、清掃開始から終了まで集中をして作業に取り組んだ結果、予定時間よりも早く清掃を完了することができた。

商学部4年 市村遥(春学期に参加)

予定時間よりも早く清掃を完了することができた。

文学部3年 石川遼(秋学期に参加)

今年の5月に続き、今年2回目の善福寺清掃に参加しました。サービスセンターの方々も親しみをもって接してくださり、参加者全員が和気あいあいとした雰囲気の中で、清掃活動を通じて、地域の美化に貢献することができ、喜ばしく思っています。

また、公園の豊かな自然の景観を守ることのできた経験や、地域の方々との交流は、私たち大学生にとって良い刺激になりました。

来年度以降も当公園の清掃活動に継続的に参加していきたいと思うとともに、他地域における同様の活動にも積極的に参加していきたいと考えています。



▲善福寺公園清掃の様子

MIW 祭り (Tree)

日時 2023年10月6日(金) 10:00~17:30
7日(土) 12:00~16:00

場所 千代田区役所

内容 千代田区役所内で行われた「MIW 祭り」で「エコキャップ回収運動」の実施

参加 25名

感想

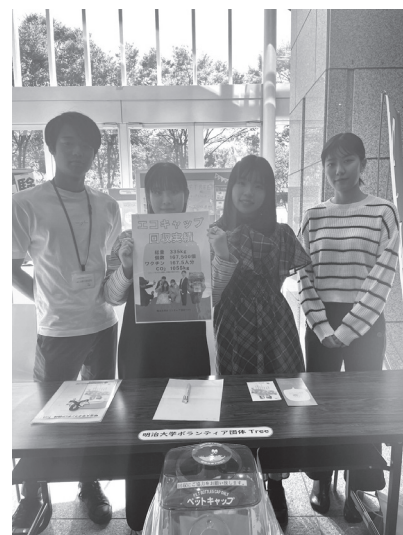


経営学部4年 葉袋 由樹
事前準備として、MIW (千代田区男女共同参画センター) の担当者の方とメールでやり取りし、どのような活動を行いたいかを決めたのち、プログラム表に不備がないかのチェック、今年度のMIW 祭りのテーマに沿ったポスターの作成を行いました。

また、前日に Tree メンバー数人で展示するキャップ回収 BOX の選定を行い、掃除をしました。当日は BOX を部室から運び、ポスターの展示と展示ブースの装飾をしました。

金曜日は来客数が穏やかだったのですが、土曜日は混雑していました。私たちの活動を知っていて、家庭で貯めたキャップを持って来てくださる方が何名かいらっしゃり、とてもありがたいと思いました。金曜日の一日で BOX がキャップでいっぱいになったので、いったんキャップ回収袋は部室に持って帰りました。

土曜日はブース活動が終了したあと、地域の方と交流する時間がありました。様々な年代の方がいらっしゃって、自分から話しかけに行くのに躊躇してしまうメンバーも多かったのですが、地域の方が本当に皆さん親切で積極的に話しかけに来てくださいました。2日間とても充実した時間を送ることができました。



▲MIW まつりの様子

千代田区一斉清掃(Tree)

日時 ▶ 2023年6月6日(火) 9:00~10:00

場所 ▶ 神田すずらん通り

内容 ▶ 大学周辺の清掃・ごみ拾い

参加 ▶ 3名



▲清掃活動の様子

感想



情報コミュニケーション学部4年 戸恒 郁海

千代田区一斉清掃として、学生3人で大学付近に落ちているゴミを拾い、地域の美化に貢献しました。最初はあまりゴミが落ちておらず、なかなかゴミ拾いをする事ができないことがありましたが、場所によっては多く落ちているところがあり、少しのゴミも見逃さないよう注意深く清掃を行いました。

街の人に話しかけられることもあり、時には「ありがとう」と声を掛けられ、やりがいを感じる場面もありました。最終的には、想像以上にゴミを集めることができ、達成感を味わうことができました。1時間という朝の短い時間でしたが、千代田区の美化に協力でき、良い1日のスタートを切ることができました。

スポGOMIイベント(Tree)

『スポGOMI』とは「ごみ拾いはスポーツだ!」を合い言葉に、チーム対抗の競技としてごみ拾いを楽しむイベントのこと¹です。

T r e eの学生は2023年度より初めて運営スタッフとして参加しました。

日時 ▶ ①2023年6月24日(土) 9:00~12:30

②2023年8月11日(金) 8:00~12:30

場所 ▶ ①すみだリバーサイドホール

②東京国際交流館 プラザ平成 国際交流会議場

参加者 ▶ ①4名 ②5名

内容 ▶ スポGOMIイベントの運営
ボランティア、一般参加者の受付や整列の声掛け・ごみの計測など



▲スポGOMIイベントの様子

感想



法学部4年 大野 伊織 (①に参加)

子どもから大人まで幅広い年代の方が一般参加しており、それぞれが楽しみながらごみ拾いを行う、とても面白い取り組みだと感じました。特に子どもたちがごみの軽量の際に一喜一憂している姿が微笑ましかったです。ごみ拾いを行うことが「めんどくさい」「つまらない」ものではなく、「気持ちいい」、「楽しい」ものであると子どもたちに感じてもらうことは、これから先もよりきれいな街をつくるためにも必要不可欠であると思いました。また、今回の活動には初めて参加してくれたメンバーもあり、少人数参加だったからこそ一人ひとりと深く関わることが出来たことが嬉しかったです。

国際日本学部4年 阿部 花香 (②に参加)

小学生が、スポGOMIの取材に来ていたカメラに向かって「ごみ拾い最高!」と叫んでいました。こうして心から楽しんで参加できるのは、拾ったごみが得点になり、競い合うスポーツだからこそだと感じました。また、煙草の吸殻の得点が高いなど、大きいものや重いものを拾えば良いというわけではないところが印象に残っています。結果はごみ袋の大きさや重さだけでは判断できず、きちんと集計が終わるまでわからないところが面白いと思いました。祝日や夏休みということもあり、子どもから大人ま

で幅広く参加していて、スポGOMIはどんな人でも楽しめるものなのだと感じました。

イベントを考案された方など、主催者側の方々と関わる機会も沢山あり、海洋ごみ問題について真剣に考える方々と接したことで刺激を受けました。

基本的にチームに分かれて活動しました。先に終わったグループが他のグループの応援に行くなど、コミュニケーションを取りながら活動することができ、メンバー同士の交流も深まったと思います。

¹ 第7回グッドライフアワード 環境大臣賞 NPO・任意団体部門受賞者紹介ホームページより一部引用
ホームページ URL <https://x.gd/0ufOM>

エコキャップ回収(Tree)

キャンパス内に設置された回収ボックスでペットボトルのキャップを集め、回収業者に引き渡します。その後資源として売却され、売り上げを「認定NPO 法人世界の子どもにワクチンを日本委員会」を通じて発展途上国の子ども達のワクチン接種のために寄付しています。

日時 2023年 4月22日(土) 17:30~19:00
9月27日(水) 12:30~13:30
12月19日(火) 14:00~15:00

場所 駿河台キャンパス

内容 リバティータワー及びアカデミーコモンを中心に駿河台キャンパスにおけるキャップの回収、および回収したキャップの部室への運搬

参加 4月22日(土) 17名
9月27日(水) 16名
12月19日(火) 8名

センターの役割 相談、当日対応、備品の提供(駿河台)



▲エコキャップ回収の様子



感想

Treeは創設以来、開発途上国のワクチン支援のため、ペットボトルキャップの回収活動を行ってきた。その一環として行われた本活動は、Treeの2023年度の初回活動ということもあり、それぞれが緊張した面持ちでスタートしたが、活動を通じて各班は打ち解け、終了時には話が絶えない様子だった。途中回収袋が一部足りなくなったり、予想以上にエコキャップの数が多く、人手が足りなくなったりするなどの

アクシデントもあったが、メンバー全員が協力して乗り越えたからこそ、和気藹々とした雰囲気が生まれたのだと思う。

また、今回の活動には留学生のメンバーも複数参加しており、振り返ってみるとまさに、「多様性の中でボランティア活動を行い交流の輪を広げる」Treeらしい活動だった。以降も引き続きキャップ回収活動には注力し、Treeの一員として社会に大きく貢献していきたい。

Treeとは？

Treeは、駿河台ボランティアセンター直属の学生ボランティア団体です。2023年度は209名(2023年7月時点)の学生が部員として所属していました。主な活動として、「エコキャップ運動(※)」、「ホームカミングデー」への協力、「明大祭」への出店を行っています。この他にも、清掃活動、駿河台キャンパス近郊の地域で行われる行事の運営補助等を行い、地域社会に貢献する取り組みを積極的に行っています。

※駿河台キャンパス内にペットボトルキャップの回収箱を設置し、回収を行う。回収したペットボトルキャップは、民間事業者に売却し、その売り上げをNPO団体に寄付することで世界の子どもたちにワクチンが提供される。

エコキャップ業者引き渡し (Tree)

日時 2023年5月12日(金) 10:00~12:30
11月8日(水) 10:30~11:30

場所 駿河台キャンパス10号館内

内容 袋詰めしたエコキャップ袋を業者の方に引き渡す

参加 ・5月12日(金) 学生5名 職員2名
・11月8日(水) 学生7名

キャップ回収 ・5月12日分 335kg (キャップ167,500個、ワクチン167.5人分)
・11月8日分 120kg (キャップ60,000個、ワクチン60.0人分)

センターの役割 相談、当日対応及び立会、備品の提供 (駿河台)



▲エコキャップ業者引き渡しの様子



感想
商学部4年 平松 佑翔
エコキャップの運搬を学生スタッフと教職員で協力して行い、非常に楽しい活動であった。袋が重く量も多かった為ハードな作業ではあったが、集めたエコキャップが発展途上国の子どものためのワクチンになると考えるとやりがいのある活動であったと思う。

エコキャップ回収 (公認ボランティアサークルぱれっと) 和泉

「手軽なボランティア」をモットーに環境系に力を入れて活動している公認ボランティアサークル「ぱれっと」が2008年から行っている活動です。

キャンパス内に設置された回収ボックスでペットボトルのキャップを集め、回収業者に引き渡します。その後、資源として売却され、売上を「認定 NPO 法人世界の子どものためのワクチン日本委員会」を通じて発展途上国の子どものためのワクチンのために寄付しています。

日時 通年 12:40~13:10

場所 和泉キャンパス

回収 147kg

センターの役割 作業場所等の提供、回収したキャップの保管 (和泉)



▲回収の様子



▲集合写真

感想



文学部2年 水谷 美咲
 キャンパス内に設置しているエコキャップボックス回収の取り組みは、以前からボランティア参加者の減少が課題にあがっていました。そこで一つ、改善に繋がった活動として、文化祭があります。文化祭では焼き鳥の模擬店を出店し、これまで以上にサークルメンバーの仲を深める良い機会となりました。

エコキャップ回収は目立たない単純な作業ですが、活動していると、私達の存在に気づいて、ちらっと見てくれる学生がたくさんいます。活動は昼休みなので、よりいっそう学生の目に留まり、「次から、ペットボトルを捨てる際は、キャップとボトルで分けてみよう」という環境意識の向上や、「あのビブスを着た人達は何だろう?」ということによって私達を知ってもらおうきっかけにもなっていると感じています。

今後も、キャンパス周辺の自然環境向上を軸に、様々な活動を通して、これまで以上に多くの方の役に立てる居心地の良いサークルを目指します。

明大前駅周辺清掃活動（公認ボランティアサークルぱれっと）

環境問題への啓発活動を主な目的として公認ボランティアサークルのぱれっとが活動しています。

2023年度の清掃活動は、和泉キャンパス正門から出て、線路沿いの道路を通り、体育館、和泉キャンパス北門までを基本ルートとし、時には、甲州街道沿いに足を延ばして行いました。ごみ拾いをする際は、燃えるごみ、燃えないごみ、ペットボトル、びん・かんごみ袋の係をその都度振り分け、トングで収拾をします。集めたごみ袋は、それぞれの重さを測り、記録し、処分します。

昼休みに行うこの活動はメンバー同士のコミュニケーションの機会にもなっており、他の公認ボランティアサークルと合同で活動を行うこともあります。

日時 週1回程度 12:40~13:20

場所 和泉キャンパス周辺、甲州街道沿い、明大駅前通学路等

回収 (一回あたり平均) 燃えるごみ100g、缶10g、ペットボトル150g
 燃えないごみ300g

センターの役割 作業場所及び保管場所の提供（和泉）



▲活動の様子



▲集合写真

感想



文学部2年 水谷 美咲
 学内においては環境に対する意識が向上しつつありますが、残念なことにキャンパス付近の公園や路上に、タバコの吸殻や缶のごみが落ちていることが多々あります。特に、印象に残っているのは、夏の公園に大量の空き缶が落ちていたことです。45Lごみ袋3つ分の空き缶を回収しました。また、そのほとんどがお酒の缶でした。

飲食店よりも低価格でお酒を楽しむために、公園を利用する人が増えているように感じました。寒くなると段々と公園を利用する人が減少するため、それに比例してごみの量も減少していきますが、ごみの処理を疎かにしないでほしいというのが、率直な感想です。そして、一年間を通して感じたのは、ごみの回収も大切ですが、「ポイ捨てしづらい環境を作ること」はさらに難しいながらも重要であるということです。

昼休みの時間帯の公園や路上にはたくさんの方がいます。その中で、サークルのビブスを着て皆でゴミ拾いをすることで、簡単にごみを捨てさせない環境作りに繋がったと思います。そうした部分で、ゴミ拾いは一見すると地道な作業ではあるものの、キャンパス周辺における環境を維持する点で有効に働いていると考えています。加えて、長期休みに他サークルと共同で取り組んだ葛西臨海公園でのゴミ拾いも、安全で居心地のよい空間を維持するために役立てたのではないかと考えています。

2023 BLUE SANTA ALL JAPAN at 葛西臨海公園 (Tree)

| | |
|----|--------------------------|
| 日時 | 2023年7月16日(日) 9:00~11:00 |
| 場所 | 葛西臨海公園 |
| 内容 | 公園清掃 |
| 参加 | 44名 |
| 主催 | 有志団体「スマイリングプロジェクト」 |



感想

経営学部4年 葉袋 由樹

江戸川区と江東区の医療や福祉従事者の方たちの有志団体「スマイリングプロジェクト」さん主催の葛西臨海公園清掃に参加しました。私たちの団体からは大人数の参加だったので3班に分かれて朝早くから葛西臨海公園清掃を行いました。

海沿いでは街に落ちているようなごみとは種類が違って結構細かいものまであり、拾うのが大変でした。一見綺麗に見えても、よく見るとタバコの吸い殻や花火の燃えたあとのごみ、プラスチックのごみが散乱していました。今回は台風や大雨のあとではなかったのですが、それほどではなかったようですが、それでも大量にありました。清々しい朝の海の姿の裏には深刻な海洋ごみの問題があるということも忘れてはいけなかったと思います。



▲清掃活動中の様子

ビーチクリーン活動 (Tree)

日時 2023年8月24日(木) 14:00~16:30

場所 片瀬江ノ島海水浴場

内容 海水浴場の清掃

参加 32名



▲ビーチクリーンの様子

感想



経営学部4年 葉袋 由樹

江の島には特別大きなごみはありませんでした。しかしよく砂浜を見てみるとタバコの吸い殻であったり、ガラス片がかなり落ちていたりしました。注意深く歩いていないと一見綺麗なビーチですが、実は海の汚染につながる細かいごみが無限にあり、一人ひとりが海ごみの問題に対して意識していかないといけないと思いました。葛西臨海公園の清掃の時よりも気候が穏やかで快適に過ごせて、夏のとても良い思い出になりました。

江の島新歓清掃 (公認ボランティアサークル LINKs)

日時 2023年5月28日(日)

場所 神奈川県江の島周辺

内容 新入生との交流イベントとして、ビーチの清掃、観光

参加 94人

センターの役割 備品貸し出し (生田)



▲活動中の様子

企画者の声



農学部3年 大谷 凌央

この活動では班ごとに分かれて江ノ島のビーチにて清掃活動を行なった後、観光や食事を通して交流を行いました。準備段階では清掃場所の確保や必要な器具や持ち物の手配、班分けや当日の段取りなどを役割分担をしながら進めていきました。また去年の江ノ島新歓では当日だけではメンバーの仲が深まらず思うように交流が進まなかった現状が課題としてありました。そこで23年度は開催前に班のメンバーの顔合わせの懇談会を行い、お互いの中をある程度深めてから、開催当日により絆を強めてもらうようなスケジュール調整、取組を行いました。当日は参加者が困る事のないよう、企画担当者は早めに到着して先導を行ったり出欠確認の報連相を徹底し、活動が円滑に進むよう一体となって運営にあたりました。結果的にどの班も楽しんで活動を終える事が出来、サークル全体として本格的な活動が始まる先駆けとして今年も非常に重要な役割を担ったイベントになったと思います。



▲拾ったゴミ

エネルギー環境ワークショップへの出展 (公認ボランティアサークル LINKs)

近隣中学校にてエネルギー・環境ワークショップが行われ、公認ボランティアサークル LINKs が授業を行いました。

川崎市立柞形中学校は総合学習としてエネルギー・環境教育に取り組んでいます。毎年11月にワークショップが行われ、十数の企業・団体が授業を行っています。2020年から明治大学の学生も参加しています。全校生徒が30人前後に分かれて体験や実習を交えながら学びを深めています。



▲企画中の様子

日時 2023年11月17日(金) 13:40~15:10

場所 川崎市立柞形中学校

内容 中学校の総合的な学習の時間「エネルギー環境ワークショップ」にて環境に関する授業を行う。

《授業の目的》

- ・脱炭素社会の実現へ向けて、化石燃料を使わず動くリニアモーターカーの仕組みを学ぶ。
- ・学校で学ぶ理科が、社会でどのように役立っているのかを学ぶ。

《実験》

①ローレンツ力を使った模型を中学生が3、4人のグループごとに作成
細いアルミパイプ2本の間に磁石を敷き詰めた線路を作り、メランスポンジの下にアルミ箔を貼った車を線路に乗せ、アルミパイプに電流を流して車を走らせる。

②マグレブの原理を用いた模型でのデモ実験
磁石を敷き詰めた線路の上に磁石を張り詰めたメランスポンジを乗せ、反発力でメランスポンジ浮遊させる。

参加 8名

見守り 岡 通太郎 (農学部准教授)

センターの役割 相談、予備実験・ミーティングの場所の提供



▲ワークショップの様子

参加者の声



理工学部3年 Hartanto Leon Adityo
生田駅の北側にある柞形中学校で毎年行われるエネルギー環境ワークショップに、公認ボランティアサークル LINKs が出展をさせていただきました。今年のテーマは「リニアモーターカー」です。背景には二酸化炭素の排出により、我々の環境汚染はひどくなる一方という問題があります。二酸化炭素が出ない車が作れたら、それが解決になるのではないかとこの考えから、ローレンツ力と磁石の反発力を利用してリニアモーターカーの実験をすることにしました。

実際にリニアモーターカーを作ってみると、車が動いていなかったり、大学の間隙時間が見つからず、実験が進んでいなかったりするなどの問題が発生しました。試行錯誤を繰り返した結果、当日はメランスポンジから作られた車を発進させることに成功し、生徒たちが楽しんでいました。この成功は私一人の成功ではなく、参加してくださった同期、先輩と後輩たちのおかげです。未熟なリーダーの私を信じてついてきてくれた人たちには感謝しかありません。

このイベントを通して、普段得られない刺激を実感できました。学生の立場からではなく、教師の立場から物事を考える機会を得られました。たったの3時間の授業でしたが、この思いは一生忘れられないと思います。



▲参加メンバーと成果物

つながるマルシェ（公認ボランティアサークル LINKs）

日時 2024年3月23日(土)

場所 武蔵小杉、三井ショッピングパークららテラス前

内容 SDGs への関心を深めるワークショップへ出展しました。アルギン酸ナトリウムと乳酸カルシウムの化学反応から、使い捨て容器に入れなくても持ち運び可能な、環境にやさしい不思議な水のボール「Ooho！」を作る製作体験を行いました。

明大生 15人

来場 約300人

主催 かわさき市民活動センター

センターの役割 予備実験の場所の提供、備品貸し出し（生田）

参加者の声



農学部3年 大谷 凌央

一般社団法人かわさき市民活動センター様主催のつながるマルシェにて、SDGsへの関心を深めるワークショップを出展しました。具体的にはペットボトル飲料に置き換わる存在として注目されている「つかめる水」を実際に見て、触ってもらい多くの来場者を楽しんで頂きました。企画段階では参加メンバーでアイデアを持ち寄り、実現可能性や今までのワークショップの経験、来場者の年齢層などを考慮し議論を重ねてワークショップの内容を決めました。開催前の準備においては、水を固める過程に難儀しました。こちらが想定している化学反応が上手く起こらず、頭を抱える場面がありました。ですが、一人一人がこの課題に対して試行錯誤し意見を出し合った事で当日は適切な状態でお客様に提供する事ができました。当日参加出来なかったメンバーもいましたが一人一人が主体性を持って役割を把握し、行動出来ていた事が最後までこの企画を良い形で終える事が出来た要因であると思います。



▲実験道具



▲つかめる水

神田祭 (Tree)

日時 2023年5月13日(土)、14日(日) 14:00~17:00

場所 神保町周辺

内容 神輿の補助、交通整理

参加 2023年5月13日(土) 7名
5月14日(日) 12名



感想

文学部3年 石川 遼

私は今回が入会してから初めてのTreeの活動への参加であったが、活動を通じてTreeの雰囲気を知ることが出来たり、ボランティア活動を通して地域に貢献することの充実感を得られたりすることができた。

当日は雨が降っており、ビニールコートを着用しながらの活動となったが、祭りのボルテージは非常に高く、悪天候を忘れさせるほどの盛り上がりであった。また、祭りの途中では、差し入れを頂いたり、神輿を担がせてもらえたりなど、初めての体験も多かった。特に神輿は見た目以上に重く、肩を負傷したのはいい思い出である。地域の方々との交流を通じて、普段関わることが少ない方々をつながりをもつことができたことは、非常にいい体験であった。明治大学は、このような方々を含む、さまざまな人たちの支えで成り立っていることを、われわれ学生は日々感謝しなければならないのだと思う。神田祭は最高ですね！



▲神輿を担ぐ様子



▲交通整理の様子

神田すずらん祭り (Tree)

コロナの制限が明け、4年ぶりに開催されました。ブース内では過年度より行っていた、エコキャップ啓発活動だけでなく、Tree では初めての試みとなる「レモネードスタンド活動」¹にも挑戦しました

日時 2023年5月27日(土) 9:30~17:00

場所 神田すずらん通り

内容 レモネード販売・ペットボトルキャップ回収

参加 52名



感想

法学部4年 素保 茉弥
レモネードスタンドでは、1杯300円で売上金およそ38000円の成果を出すことができました。お客様の中心は家族連れやお年寄りの方々と、売上金を小児がん支援として寄付する活動ということから買ってくださいの方もいらっしゃり、寄付に対する意識の高さを垣間見ることができました。

また、キャップ回収活動では、すずらんまつりボランティアの方と協力して参加者のゴミの分別に関する誘導を行い、その一環としてペットボトルキャップを集めることができました。



▲ Tree ブースの様子

明治大学ボランティア団体TREE

LEMONADE STAND

レモネードスタンド活動について

起源はアメリカ
アメリカでは、子どもたちのお小遣い稼ぎとしてレモネード販売が定着していました。
ある小児がん患者の少女が自宅の庭にレモネードスタンドを開き、同じがん患者の子どもたちのために多額の寄付を集めました。この活動がテレビで取り上げられ、全米に知れ渡りました。
このことをきっかけにレモネードスタンドは、お小遣い稼ぎだけでなく、集めたお金を小児がん治療のために寄付するという社会貢献活動としても広がっています。

👉 レモネードの売上は全て「JCCG」などの小児がん支援団体へ寄付されます！
「レモネードスタンド普及協会」についてはこちら→

▲レモネードスタンド活動周知のポスター

¹ レモネードスタンド活動とは？

起源はアメリカ。子どもたちのお小遣い稼ぎとしてレモネード販売が定着していました。ある小児がん患者の少女が自宅の庭にレモネードスタンドを開き、同じがん患者の子どもたちのために多額の寄付を集めました。このことをきっかけにレモネードスタンドは、集めたお金を小児がん治療のために寄付するという社会貢献活動としても広がっています。

・レモネードスタンド普及委員会ホームページより一部引用

参考 URL : <https://www.lemonadestand-pa.jp/about/>

華を楽しむ会 (Tree)

日時 春学期 2023年6月24日(土) 13:00~14:00

秋学期 2023年11月25日(土) 13:30~15:00

場所 神田猿楽町会詰所付近

内容 神田猿楽町付近の下段の整備・花植え

参加 春学期8名 秋学期6名

センターの役割 連絡・調整(駿河台)

感想



経営学部4年 葉袋 由樹 (春学期に参加)

2人ペアになって猿楽町の方に渡されたお花を自分たちのセンスで植えていきました。虫が苦手な私は土を掘り起こしたときに虫がいて結構大変だったのですが、それでもお花を植えて花壇が華やかになったのを見ると達成感を得ることができました。最後にお水をあげてより一層愛着がわきました。

猿楽町町会の皆様には神田明神祭のときからお世話になっているのですが、いつも親切にくださり感謝の気持ちでいっぱいです。天気にも恵まれ、とても充実した時間を過ごすことができました。

政治経済学部4年 塚本 紗綾花 (秋学期に参加)

6月の開催に引き続き、神田猿楽町町会の皆様にお声がけいただき参加してきました。

活動の詳細は街路樹下の枯れてしまった草花を片付けた後、新たに4種類の花を植える事です。6人で80ポット程を植えてきました。

普段から頻繁に草花を扱うわけではないため慣れない作業になりました。バランスや色の配置等に少々悩みましたが、参加メンバー同士で話しながら楽しく活動できたのではないかと思います。地域の皆様や日本大学の学生さんとお話する機会があったメンバーもいたようです。最近は団体内で動く活動が多かったため、今回のように地域や他大学の皆様と交流をもてる大切な時間になったと感じます。



▲華を楽しむ会の様子

北神町子ども夏まつり (Tree)

日時 2023年7月22日(土) 13:00~18:00

場所 北神町内会事務所前/北神町内会

内容 ゲームコーナー (スマートボール、ボール落としゲーム) の受付、景品の受け渡し、後片付け

参加 3名

センターの役割 連絡調整、相談 (駿河台)



政治経済学部4年 塚本 紗綾花

1、2歳 (保護者同伴) から小学生までたくさん子ども達が遊びに来ていました。途中スマートボールが壊れるピンチも起こりましたが、その場にある物で修理してゲームを再開させる事ができたので良い経験になったと思います。子ども達が元気に遊び、地元のおじさん達が子ども達を見守っている姿が印象的でした。小さい頃行った地元のお祭りを思い出すような懐かしさがありました。

ふれあい福祉まつり (Tree)

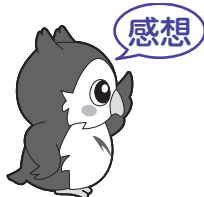
日時 2023年10月14日(土) 10:00~16:00

場所 千代田区役所・かがやきプラザ

内容

- ・防災ブースの運営 (他大学の学生と共に、防災バッグにいれると良いものを複数のカードのなかから選んでもらうゲームを行う)
- ・福祉祭りの会場準備や案内

参加 7名



法学部3年 小此木 咲乃

防災ブースでのボランティアでは、小さい子からお年寄りの方まで、たくさんの方にきていただき、防災について学びながら楽しく交流することができました。他団体の方のお話も聞くことができ、充実した1日でした。



▲ふれあい福祉まつりの様子

キッズハロウィンフェスティバル (Tree)

日時 2023年10月28日(土) 11:00~17:00

場所 キンカストリート商店街

内容 会場設営/撤収、交通誘導、子どもの誘導、事務作業

参加 5名

感想



国際日本学部3年 斎藤 眞子
キッズハロウィンフェスティバルへのボランティア参加は、アフターコロナ時代の地域活性化に向けた一翼を担った感慨深い経験でした。子どもたちとその家族が笑顔で集い、安心して楽しめる場を提供できたことが特に嬉しかったです。また、このイベントを通じて、地域社会が再び結びつき、活気を取り戻している兆しを感じました。共にイベントを成功させるための準備や調整は大変でしたが、そのため

の参加者一人一人が当事者意識と使命感をもち、盛り上げるために創意工夫したのは、新たなイベントの在り方を考える上で貴重な経験だったと思います。アフターコロナの時代において、地域の強さと連帯感が一層大切にされることを実感しました。子どもたちの笑顔や家族の絆が、地域全体にポジティブな波及効果をもたらし、今回育まれた団結力が、地域の未来への前向きで持続可能なエネルギーとして広がっていきたくて強く感じました。

神保町ブックフェスティバル (Tree)

日時 2023年10月28日(土)、29日(日) 10:00~18:00

場所 神保町すずらん通り周辺

内容 交通案内や来場者への会場案内、ごみエコ隊としてごみ分別の指南

参加 5名

感想



法学部4年 大野 伊織
本のお祭りという他では体験出来ないようなお祭りの運営ボランティアに協力させていただきました。お祭り自体には高齢の方が多く印象を受けました。また、小学生マーチングバンドや大学生の演奏発表等も

行われており、このような幅広い年代の方が交流を重ね、楽しめるお祭りに協力することが出来て嬉しかったです。

また、私達の普段の活動では基本的に他の団体の方と関わることが少ないですが、今回のブックフェスティバルでは、Treeだけでなく他の団体の方々も参加していたことで、普段では経験できない、「活動の中で様々な方と関わる」ことが出来たと思います。今後もこのようなブックフェスティバルがより円滑に開催されるために Tree としても協力を続けていきたいです。



▲神保町ブックフェスティバルの様子

ボランティアを通じて得た仲間

情報コミュニケーション学部1年 高島一樹

明治大学の入学式1週間前、私は生まれ育った地元を離れ、東京にやってきました。同じ大学に進んだ高校の友人はおらず、心細さを抱えながら東京駅に降り立ったことを覚えています。見慣れない土地で友人は見つけれられるか、大学生活は楽しめるか、授業についていけるか、不安は尽きませんでした。しかし、そんな心配は杞憂に終わりました。「ボランティア団体の明治大学支部」立ち上げという経験を通して、かけがえのない仲間を得ることができたからです。

そもそも私が明治大学支部を作ろうと決意したのは、ボランティアセンターで

のお誘いがきっかけでした。大学入学から半年間、私は車いす体験会や学童の見守り活動、ゴミ拾い活動など、様々なボランティア活動に参加していました。活動しているなかで私はひとつ悩みを抱えました。それは授業と活動、または活動同士の両立が難しいことです。多くの活動は、自宅から遠い場所に出向き、半日以上時間を要するものが多かったので、授業のある平日に行くことは不可能でした。また、2日以上活動すると体力的に負担が多く、もともと病弱な私は体調を崩してしまうことが多かったのです。ボランティア活動への情熱はあっても、心身的に難しい状況が続いていました。



▲キックオフセレモニー

画、活動拠点の確保など、本当にたくさんの課題に直面しました。そんな時、支えとなってくれたのが、思いに共感し集まってくれた仲間でした。立ち上げようと思ったときは私ひとりだけだったのに、活動を見ていた周りの人たちが手伝いたいと、手をあげてくれたのです。

まず、最初集まった人たちで協力し、さらにメンバーを増やそうとしました。ポスター作成や、チラシ配布、SNSでの発信を行いました。当初思うような成果を得られず、心が折れそうになる時もありました。それでも、仲間たちは励ましの言葉をかけてくれ、一緒に改善案を考えてくれ、地道に少しずつ仲間を増やしました。活動内容の企画も難航しました。どうしたら自分たちにとって社会にとっても意義のある活動ができるか、議論を重ねる必要がありました。時には意見がぶつ



▲インタビューを受ける筆者

そんな折、ボランティアセンターから紹介されたのが、「パトラン」というボランティア活動でした。パトロールとランニングを組み合わせた活動で、走って地域を見守るというものでした。どこでもいつでも活動することができ、体力も自分のペースに合わせてつけられる、というのは、病弱な私に正に適していました。その活動に興味をもち数ヶ月ほど参加していると、その活動をさらに他の明治大学生にも広めたいと思うようになりました。それが支部の立ち上げを始めたきっかけです。

しかし、立ち上げは容易ではありませんでした。メンバー募集、活動内容の企

かり合うこともありました。互いを尊重し、具体的な活動内容をまとめていきました。現在ではボランティアを空きコマに実践したり、東京都都民安全課から取材を受けたりするようになりました。

活動するにあたり、大学構内での活動許可を得たり、荷物置き場となる場所を見つけたりする必要がありました。大学や地域の方に協力を依頼し、ときには断られたこともありました。しかし、熱意をもって交渉した結果、なんとか活動拠点をを見つけることができました。

こうして、様々な困難を乗り越え、私たちは明治大学支部を立ち上げることができました。メンバーは当初の5人から20人ほど増え、何度かイベントも成功しました。しかし、まだ軌道に乗ったとは言えません。活動の継続、関係部署との調整、地域への認知度と課題は山積みです。しかし、うまくいくと信じています。なぜなら、困難に直面しても、互いに助け合い、励ましあい、ともに成長していく仲間がいるからです。

大学生活は、想像以上に充実したものになっています。東京に来て孤独だったころの私の不安は今では影も形もありません。現在は、かけがえのない仲間たちと出会い、共にボランティア活動に取り組んでいます。これからも、仲間と共に、より多くの人役に立てるような活動を目指していきたいと思っています。

世界が広がるボランティア

理工学部1年 井戸本 和花

〈活動のきっかけ〉

きっかけは、普段の生活では出会えない人たちと出会いたい！ボランティアしている人っていい人多そう！というような軽い気持ちでした。

また、学生は*無料で福島県に行けるという点も魅力的でしたが、倍率10倍の人気な活動だったため、受かる気はあまりありませんでした。

〈驚いた、予想と違ったこと〉

ボランティアの種類にもよりますが、もっと緊迫した雰囲気、あまりボランティア同士も話さず、やるべきことを淡々として贅沢はできないイメージでした。

しかし、私の今回参加したボランティアでは楽しみながら作業をしたり、震災について学べたり、ボランティア同士で夕食を食べに行ったりして、こういうボランティアもありなんだというイメージが変わりました。

〈総評〉

普段の生活では出会わない年齢も生き方もバラバラな方達と出会って、色々な話をしたことで、世界が広がる感覚がありました。

ボランティアというと奉仕する側というイメージがありますが、日常では味わえない活動をしたり、さまざまな背景を持った参加者さんの人生の話を聞いたりして、むしろ学ぶことの方が多かったように感じます。

本当に素敵な体験だったので、少しでも興味があれば、勇気を出して参加してみることを全力でお勧めします！！



▲農園で活動

* 無料で福島県に行ける…日本財団ボランティアセンター主催 「幻のフルーツ」を栽培?! 初夏のふくしま農園ボランティアに参加

旅するボランティア in 軽井沢

理工学部3年 岩田海

大学入学当初、コロナ禍の影響で人との関わりが制限され、自由な交流が減っていました。なので旅するボランティアを通じて、見知らぬ同世代の人たちと一緒に活動し交流を深めたいと思い参加しました。

今回の軽井沢でのボランティア活動の内容は、熊対策のゴミ箱の清掃や木の実の成り具合を調べる豊凶調査がありました。ゴミ箱の清掃は大変でしたが、清掃前と後を写真で比較するととてもきれいになっており達成感がありました。次に豊凶調査では観測する木を記録された特徴から見つけます。しかし特徴に記録者の個性が出ており、難しくもあり面白くもありました。調査の結果は全然木の実が成っておらず驚きました。現に現在10月下旬の熊被害の深刻さを見ると調査の重要さが身に染みしています。

*旅するボランティアはボランティア活動だけではなくて、参加者と交流する機会がありました。一緒にムササビウォッチング(ムササビがかわいかった)や、カーリング体験などをしました。この交流は私にとってとても良い経験になりました。

なぜなら、私は大学生になって自分が知っている世の中がすごく狭いと感じていたからです。そんなときに今まで関わったことがないような人たちと4日間過ごしました。普段は交流をしないような人と半強制的に関わることになったので、最初は自分が知らない世界が広がっていて戸惑いました。しかし同時に、いろいろな人の価値観に触れることができ良い経験を積むことができました。今ではボランティアが終わった後も交流があるくらい仲良くなりました。そういう意味でも私の交流関係が広がる良い機会だったと思いました。

旅するボランティアは最初、大丈夫かな、ちゃんとできるかな、と心配事が多かったです。しかし新たな価値観に触れることができ、貴重な経験になりました。行って良かったなと心から言えます。



▲豊凶調査

* 旅するボランティア…若い世代が、旅とボランティア活動を通じて自分と社会のあり方を知る経験をするプログラム。日本財団ボランティアセンター主催。

ボランティアセンター来室者・活動参加者

| | 来室者* | うち学生* | 活動参加者** |
|--------|--------|--------|---------|
| 2013年度 | 6,057 | 5,468 | |
| 2014年度 | 6,913 | 6,216 | |
| 2015年度 | 8,321 | 7,647 | |
| 2016年度 | 9,417 | 8,873 | |
| 2017年度 | 10,239 | 9,581 | |
| 2018年度 | 12,305 | 11,633 | 2,601 |
| 2019年度 | 12,008 | 11,403 | 2,347 |
| 2020年度 | | | 2,304 |
| 2021年度 | 2,241 | 1,996 | 1,824 |
| 2022年度 | 3,478 | 2,988 | 2,184 |
| 2023年度 | 3,915 | 3,308 | 2,120 |
| 累計 | 74,894 | 69,113 | 13,380 |

* 対面での数。
 ** 対面又はオンラインで、センターが主催・コーディネートした企画の活動参加者。2018年度から集計。
 *** 2020年度は、全てオンラインでの数。

外部事業への協力・取材など

外部委員委嘱

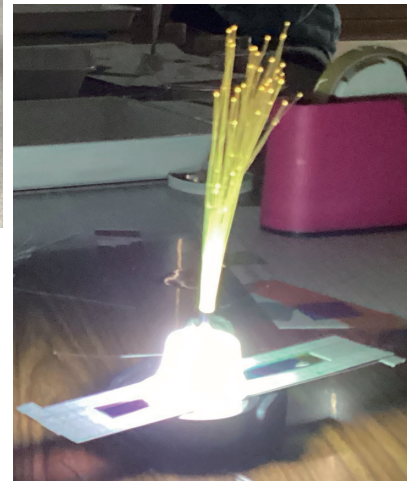
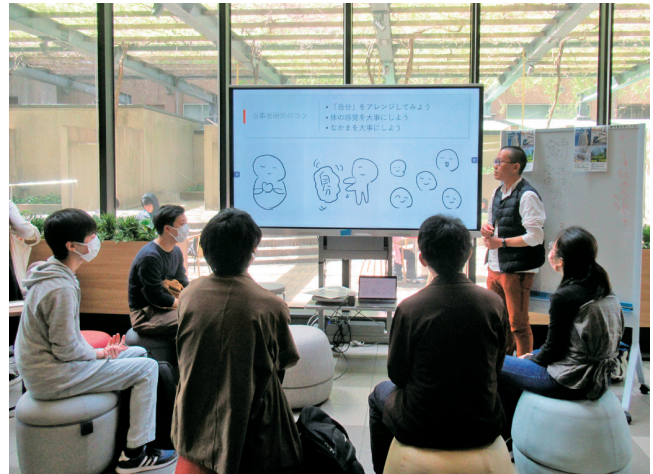
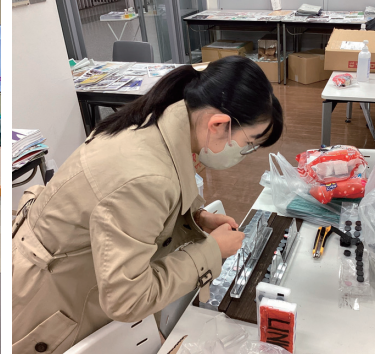
- ・杉並区社会福祉協議会杉並ボランティアセンター 運営委員
- ・杉並災害ボランティアネットワーク連絡会 委員

発行物

▼ 明治大学ボランティアセンターパンフレット



▲ 明治大学公認ボランティアサークル活動一覧表



2023年度 明治大学ボランティアセンター活動報告書
発行日 2024年10月発行
発行 明治大学ボランティアセンター